

取扱説明書及び部品表

Takakita 自走小型ローバレータ

SR-613DT
SR-613DN



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走小型ロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
運転に必要な装置の取扱い	14
1. キースイッチ	14
2. エンジンスロットルレバー	15
3. 走行クラッチレバー	15
4. 前後進変速レバー	15
5. サイドクラッチレバー	16
6. 作業クラッチレバー	16
7. ピック昇降レバー	17
8. チャンバー開閉レバー	17
9. 梱包圧感知装置の取扱い	17
10. 密度調整レバー	18
11. トリン自動繰出し装置 (SR-613DT)	18
12. トリンの通し方 (SR-613DT)	18
13. トリン巻付けピッチ調整の仕方 (SR-613DT)	19
14. トリン案内金具の位置確認 (SR-613DT)	19
15. トリンのリセット装置 (SR-613DT)	19
16. トリン繰出しスイッチ (SR-613DT)	20
17. ネット自動繰出し装置 (SR-613DN)	20
18. ネットの脱着方法 (SR-613DN)	20
19. ネットの通し方 (SR-613DN)	21
20. ネットの外し方 (SR-613DN)	21
21. ネットの巻き数設定 (SR-613DN)	21
22. ネット繰出しレバー (SR-613DN)	23
23. タイトチェン注油装置の取扱い	23
24. 安全装置の取扱い	24
25. 切断装置の取扱い	24
26. キッカーの取扱い	25
27. シート	25
28. ライトスイッチ	25
29. ワラが詰まる場合	26
30. 低速車マークの装着	26
31. 切りワラ作業の場合	27
作 業 方 法	28
1. 作業手順と要点 (SR-613DT)	28
2. 作業手順と要点 (SR-613DN)	29
3. ピックアップドラムの高さ調整	30
4. 牧草の拾い上げ方法	30
5. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法	30
6. 梱包作業方法	31
7. 結束時の注意① (SR-613DT)	31
8. 結束時の注意② (SR-613DN)	31
積み降ろし運搬・移動	32
1. トラック・トレーラへの積み降ろし	32
2. トラックおよびトレーラでの運搬	32
3. 移動について	32
作業前の点検について	33
1. 点検一覧表	33

目 次

簡単な手入れと処置 34

1. エンジンの点検・調整.....	34	12. ネットがゴムローラに巻きついた場合の処置	
2. エンジンのエアクリーナ.....	34	(SR-613DN).....	38
3. ミッションオイルの点検.....	34	13. チャンバー開閉調整.....	39
4. クローラの張り調整.....	34	14. クロップカバーの開け方.....	40
5. H S T ミッションのオイル管理.....	35	15. 切断ナイフの手入れ.....	41
6. 走行クラッチ・作業クラッチの調整...	35	16. バッテリについて.....	41
7. 左右のサイドクラッチレバー.....	35	17. 各部への注油・グリスアップ.....	42
8. トリン結束装置の調整 (SR-613DT).....	36	18. トリン切断ナイフの交換 (SR-613DT).....	43
9. トリン繰り出し調整 (SR-613DT)	36	19. 長期格納時の手入れ.....	43
10. ネット繰り出し調整 (SR-613DN)	37	20. アワメータの取付け方法 (別売)	43
11. 幅の狭い (幅 690 mm) ネットを使用する場合		21. スイッチの調整.....	44
(SR-613DN).....	38		

不 調 診 断 46

付 表 48

1. 主要諸元 (SR-613DT).....	48	4. 主要諸元 (SR-613DN).....	50
2. 主な消耗部品 (SR-613DT).....	48	5. 主な消耗部品 (SR-613DN).....	50
3. 回路図 (SR-613DT).....	49	6. 回路図 (SR-613DN).....	51

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

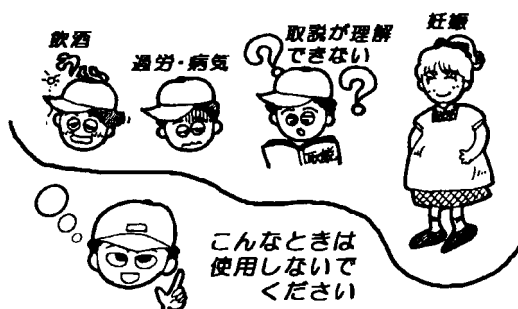
機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

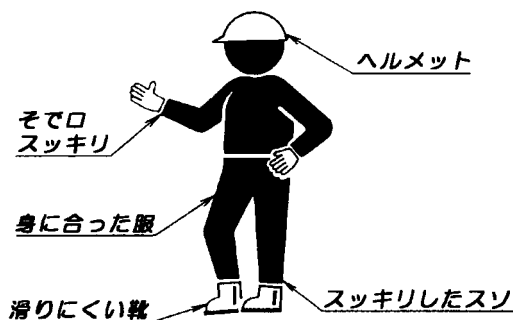
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(4) 使用目的以外への使用禁止

稲ワラ・麦稈・牧草をバール成形する作業を目的とした機械です。

他の目的には使用しないでください。

(5) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



⚠ 安全に作業するために

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを停止し、車止めをしてから行ってください。



(4) 点検・整備は過熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

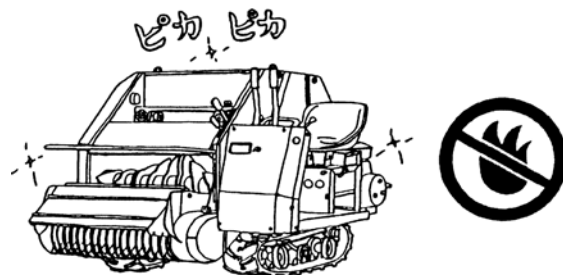
(5) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手でふれないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(6) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバーなどに枯草、芝草がたまっていると、思わぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(7) 排気ガスには十分注意

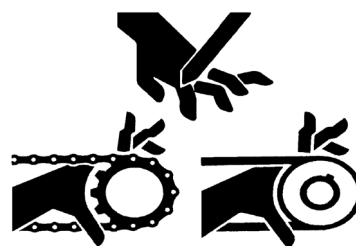
屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取り外す場合は、必ず作業クラッチと走行クラッチを切り、エンジンを停止してから行ってください。

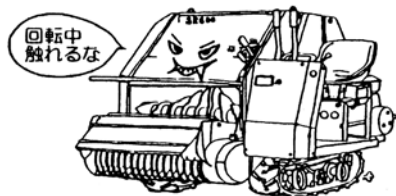
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(9) 注油・給油するときは

作業クラッチと走行クラッチを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に停止してから行ってください。



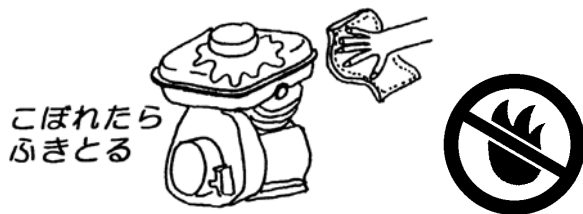
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料は拭き取る

こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



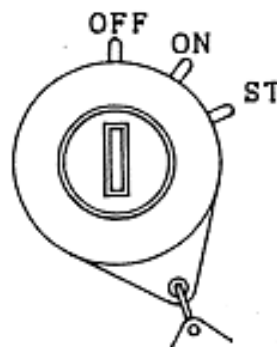
(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) ストップスイッチの動作確認を

配線コードの外れなどが無いかを点検し、作業前にキースイッチをOFFの状態にするとエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

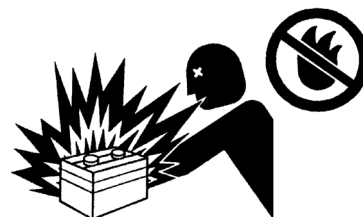


(14) 電気部品を修理するときは

①電気部品やその周辺の点検・修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側をはずしてから実施してください。



②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。



❗ 安全に作業するために

- ③ バッテリー液は希硫酸ですので取扱いには注意し、体や衣服に付着しないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐ水で洗いすみやかに医療機関を受診してください。



(15) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(4) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

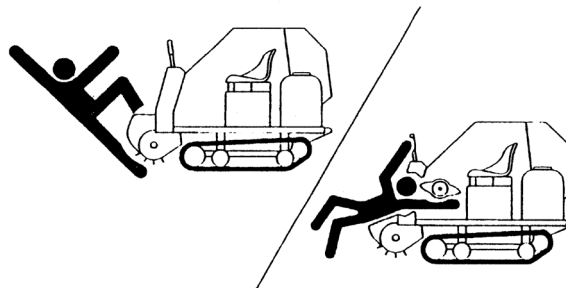
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(5) 回転中のピックアップドラムや

タイトバーには触れない

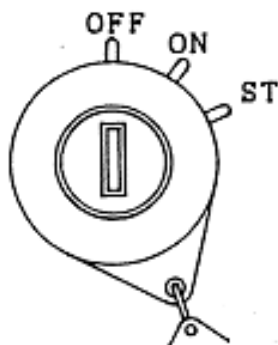
回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



⚠ 安全に作業するために

(6) シェアボルトの交換や

巻き付き草などを取り除くときはエンジンを必ず停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。



(7) 移動及び旋回するときは

旋回時に片方のクローラをあぜぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

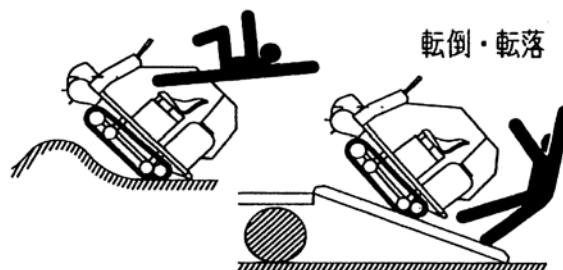
- ②傾斜地で旋回するときは、急旋回をしないでください。必ず速度を落としてください。

守らないと、転倒する危険があります。

- ③傾斜地でのボール放出は、谷側にボールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。

(9) 傾斜を登る(降りる)ときは

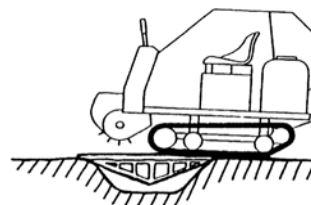
あぜ越えや田、圃場から出るとき、トラックへの積み込み等、傾斜を登る時は必ず機体から降りて作業機を後ろ向きで走行させてください。前向きで登ると機体が転倒する恐れがあります。また、傾斜地を降りる時は、機体から降りて前向きで降りてください。



(10) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(11) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、エンジンを停止し、走行クラッチを切ってください。

(12) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(13) 畦の乗り越えは

畦を越えるときは、機体が上向きから急に下向きに変わるので十分に注意し、本機には乗車せずに、最低速度で畦に直角に越えるようにしてください。畦がコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。



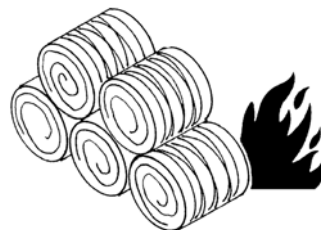
(14) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。



(15) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をバールに成形すると、バール内部からの発熱により火災が発生する危険があります。バール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへ積み込み・降ろしは

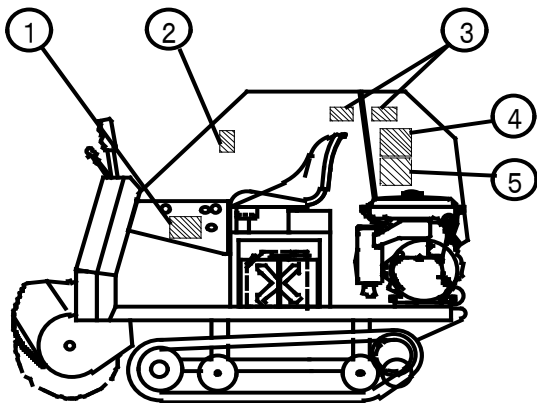
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに、積み込む場合は後進で行ってください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



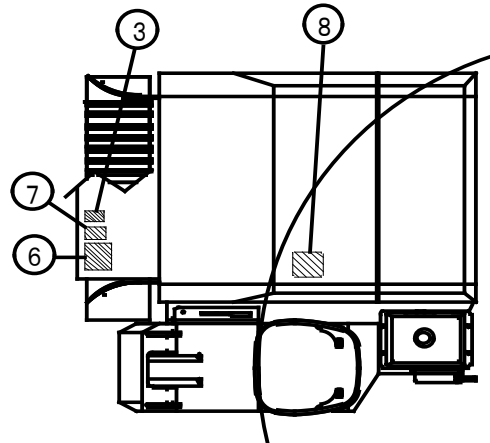
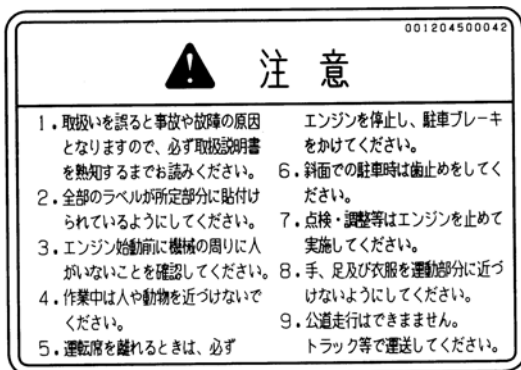
以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001204500042



④部品コード 001206001270



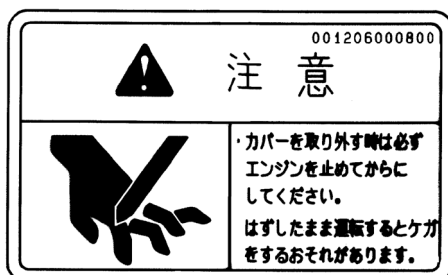
②部品コード 001206000440



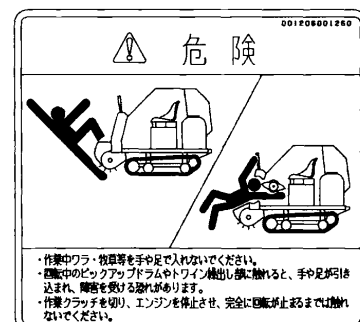
⑤部品コード 001206001380



③部品コード 001206000800



⑥部品コード 001206001260

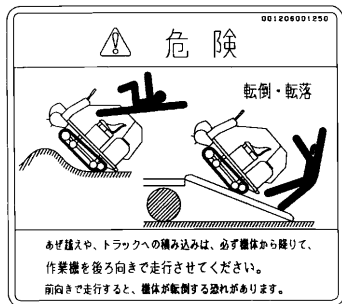




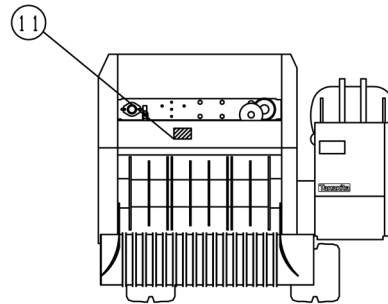
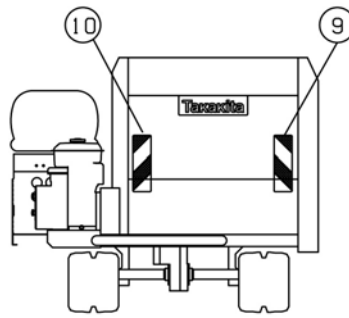
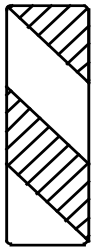
⑦部品コード 001306000210



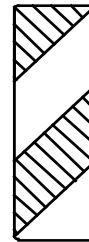
⑧部品コード 001206001250



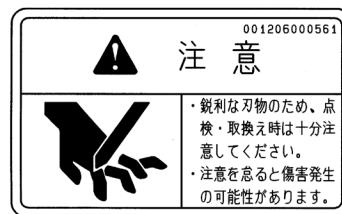
⑨部品コード 001306000370



⑩部品コード 001306000380



⑪部品コード 001206000561



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ・麦稈・牧草をバール状に梱包する作業にご使用ください。

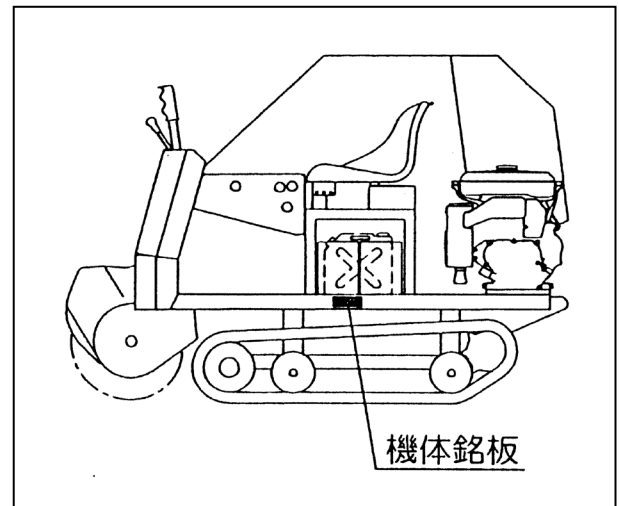
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

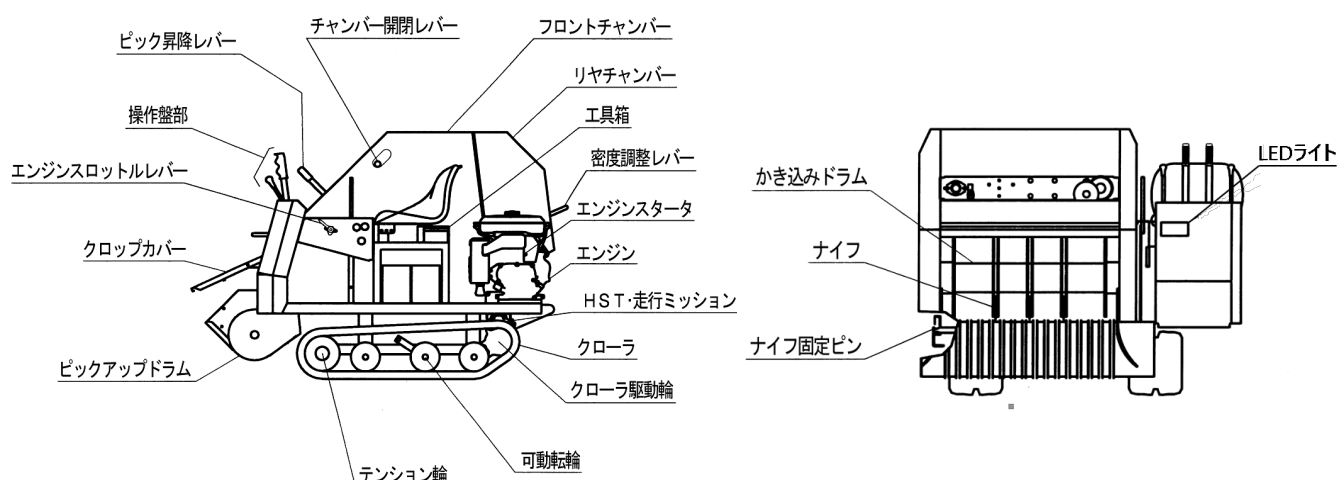
※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	自走小型ロールベアラ	
型 式	S R - 6 1 3 D T	S R - 6 1 3 D N
機体No. (SER-No.)		
購入年月日	年 月 日	
販売店名	TEL : ()	

各部の名称とはたらき

1. 各部

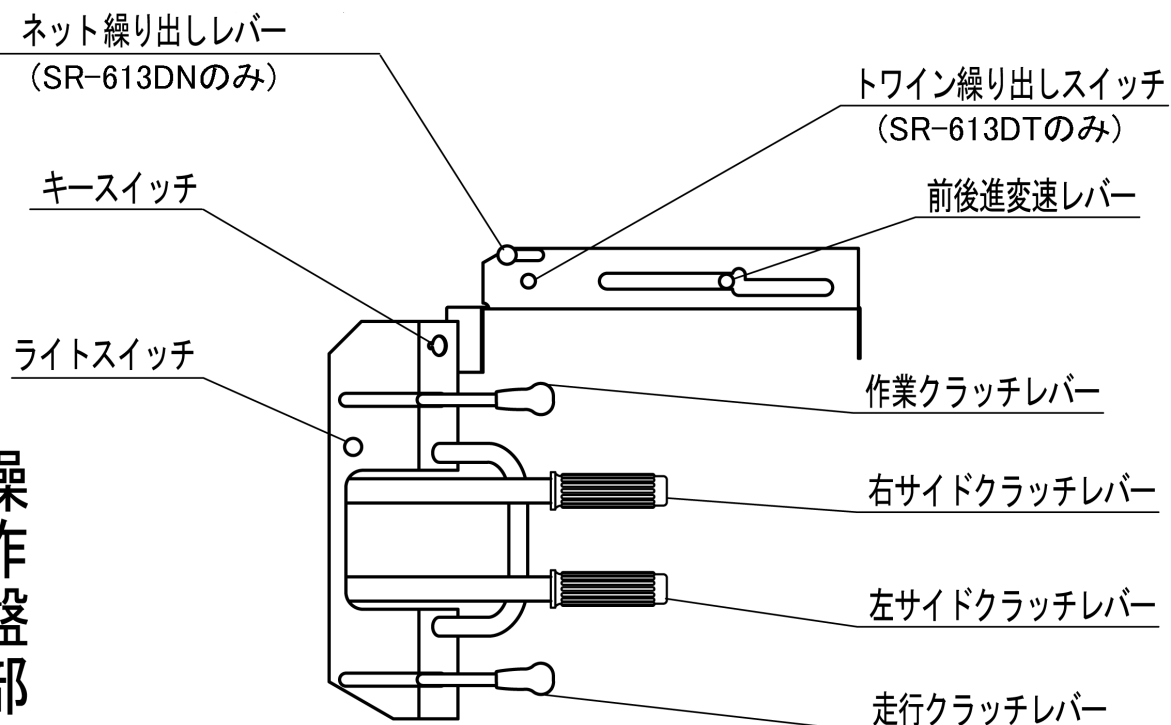


名 称		は た ら き	参照 ページ
機能 関係	フロント／リヤチャンバー	草を梱包します。	—
	ピックアップドラム	草を拾います。	—
	クロップカバー	土砂の埃の飛散を少なくします。	40
	かき込みドラム	草をチャンバー内に送り込みます。	—
	ナイフ	草を切断します。	24
	ナイフ固定ピン	ナイフを固定します。	24
動力 伝達 関係	エンジン	動力源。ディーゼル軽油を使用します。	—
	エンジンスタータ	エンジンの始動時に使用します。	—
	HST・走行ミッション	走行速度および前後進を無段階に行い、クローラへの動力伝達を行うミッション。	34
	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる駆動輪。	—
	クローラ	ゴム製の走行履帯。	34
	テンション輪	クローラの張り具合を調整し、車体荷重を支えます。	34
	可動転輪	あぜ越えやトラック等への積み降ろし時に、機体の揺れを和らげます。	—
操作 関係	エンジンスロットルレバー	エンジンの回転速度を調整するレバー。	15
	ピック昇降レバー	ピックアップドラムの昇降を行います。	17
	チャンバー開閉レバー	レバーを上引くとチャンバーが開閉します。	17
	密度調整レバー	バール成形の梱包密度を調整します。	18
その他	LEDライト	夜間での走行時の照明に利用します。 LEDなので電球の交換は必要ありません。	—
	工具箱	シェアボルト等を入れておきます。	—

各部の名称とはたらき

2. 操作盤部

操作盤部

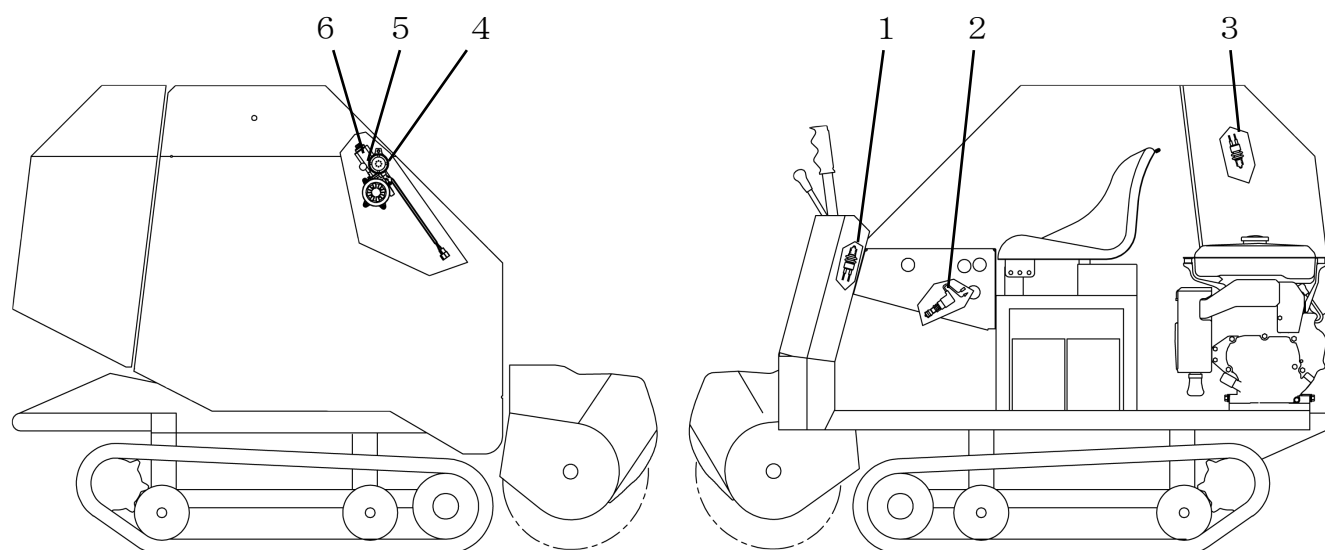


名 称		は た ら き	参照 ページ
操作 関係(操 作盤部)	キースイッチ	START位置でエンジンが始動します。 OFF位置でエンジンが停止します。	14
	ライトスイッチ	LEDライトを点灯、消灯するスイッチ。	25
	走行クラッチレバー	前に倒しておくと走行することができます。 手前に引くと走行できない状態になります。	15
	右サイドクラッチレバー	右側へ旋回するときにこのレバーを手前に引きます。	16
	左サイドクラッチレバー	左側へ旋回するときにこのレバーを手前に引きます。	16
	作業クラッチレバー	ペーラ部への動力伝達の入切を操作します。 手前に引くと動作が停止します。	16
	前後進変速レバー	本機の前後進の切り換えおよび車速の変速を行います。	15
	トワイン繰り出しスイッチ (SR-613DT)	手前に倒すとトワインが繰り出されます。	20
	ネット繰り出しレバー (SR-613DN)	手前に倒すとネットが繰り出されます。	23

各部の名称とはたらき

3. モータ、スイッチ類

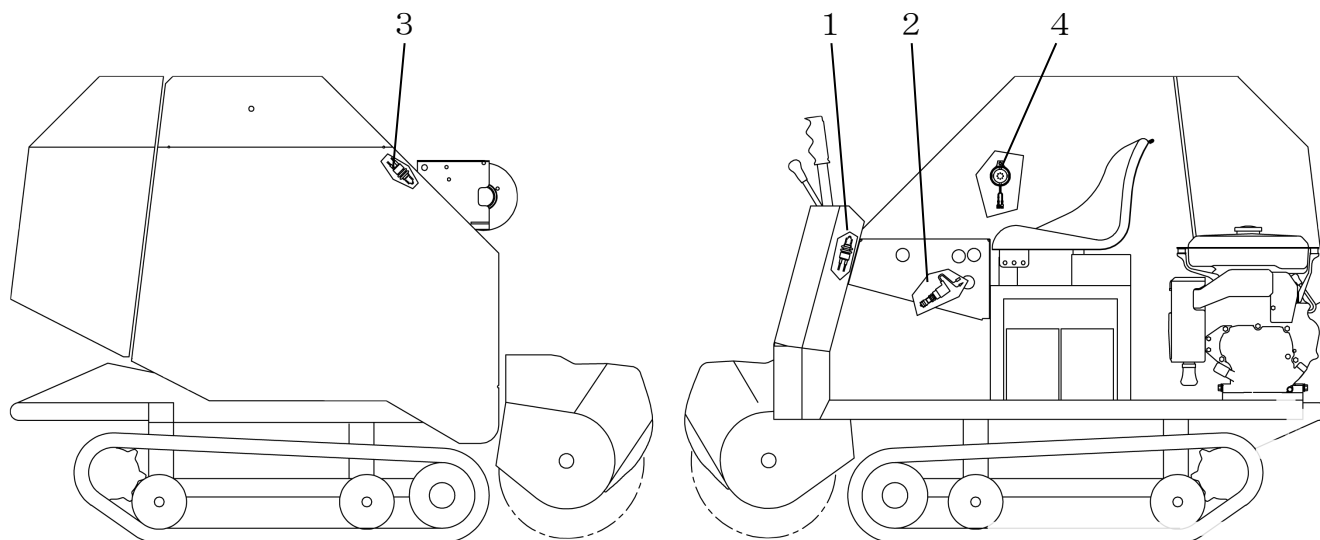
◆SR-613DT



番号	名 称	は た ら き
1	作業レバースイッチ 走行レバースイッチ	作業レバー（走行レバー）が切の状態になっているかを検出します。
2	作業停止スイッチ	クロープカバーが開いていることを検出します。
3	満了感知スイッチ	チャンバー内のベールが満了になったことを検出します。
4	ブザー	トワインを繰り出すときや満了感知したときに鳴ります。
5	リセットスイッチ	リセット装置の状態を検出します。
6	トワイン繰出しモータ	トワインを繰り出します。

各部の名称とはたらき

◆SR-613DN



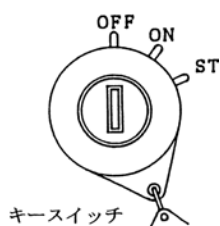
番号	名 称	は た ら き
1	作業レバースイッチ 走行レバースイッチ	作業レバー(走行レバー)が切の状態になっているか検出します。
2	作業停止スイッチ	クロップカバーが開いていることを検出します。
3	満了感知スイッチ	チャンバー内のベールが満了になったことを検出します。
4	ブザー	ネットを繰り出すときや満了感知したときに鳴ります。

運転に必要な装置の取扱い

1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。
エンジンを始動するときは、次図のように
走行クラッチレバーと作業クラッチレバーの
両方を「切」の状態にしてからキースイッチ
をST(スタート)位置まで回してください。
エンジンのセルモーターが回転し、エンジン
が始動します。停止する時はキースイッチを
OFF(停止)位置まで戻してください。

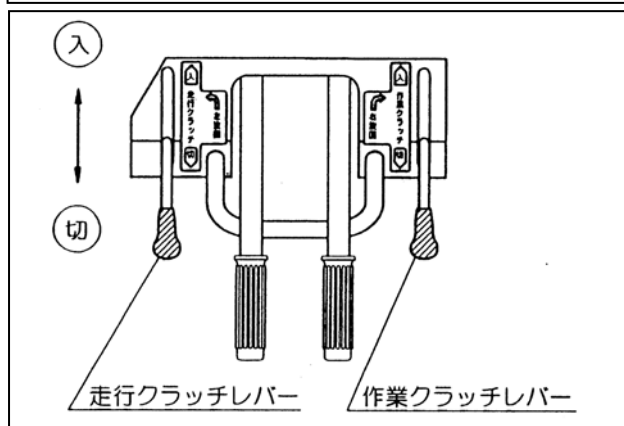
【OFF】



電気回路に電流が流れ
なくなるとともにエンジン
が停止します。

【ON】

電気回路に電気が流れ
ます。

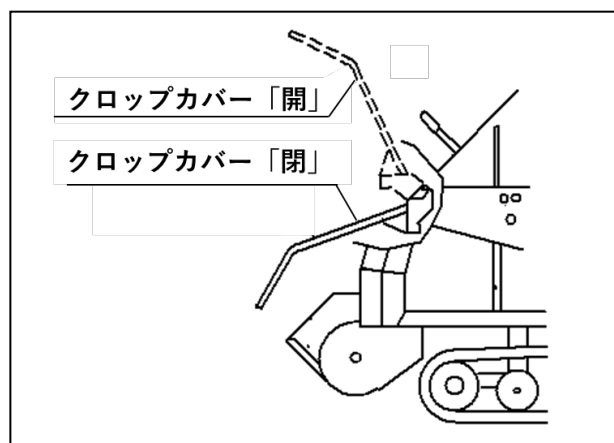


⚠ 危険

エンジン始動時は作業機が突然動き出さ
ないよう、上図のように走行クラッチレバ
ーと作業クラッチレバーが必ず「切」の状態
であることを確認してからキーを回して
ください。

注意

- 本機は安全のため、クロップカバーが閉じ
ている状態で、走行クラッチレバーと作業
クラッチレバーの両方が「切」の状態になっ
ていないとエンジンスタータが回りません。
始動する時は、クロップカバーを閉じ、
両クラッチレバーを「切」の状態にしてから
キースイッチを回してください。

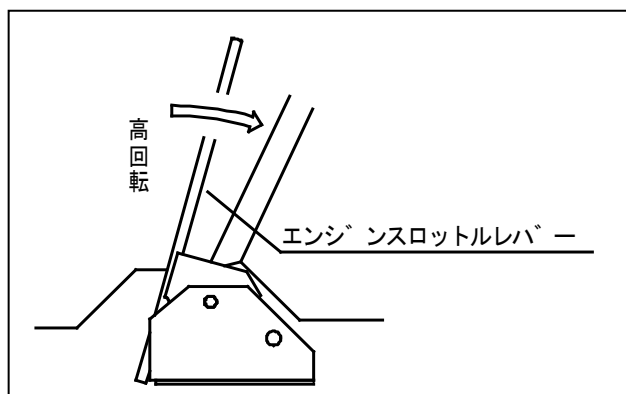


- 1回で始動せず再始動する場合は、エン
ジンが完全に停止していることを確認
したうえで、再度キースイッチを回して
ください。
- 回す場合は以下のことを守ってくださ
い。エンジンを再始動する場合は、キ
ースイッチを「OFF」にした後、16秒以上
経ってから再度キースイッチを回して
ください。(故障の原因になります。)
(ディーゼルエンジンのため、約16秒間
は燃料カット機構が働いています。)
- セルモーターは15秒以上連続して回さ
ないでください。(故障の原因になり
ます。)
- エンジン回転中はキースイッチを「ST」
位置にしないでください。
セルモーターが破損します。

運転に必要な装置の取扱い

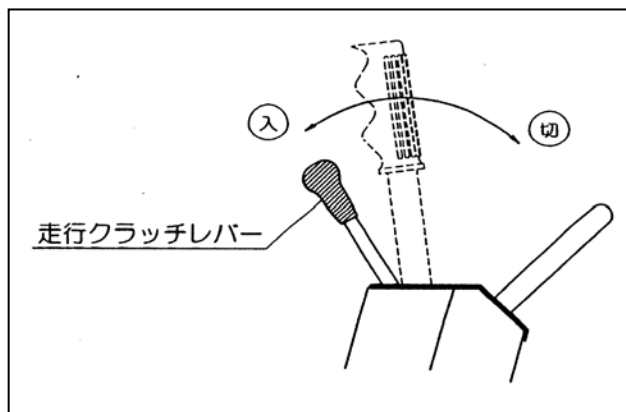
2. エンジンスロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。次図の方向に回すほど、エンジンの回転速度が速くなります。

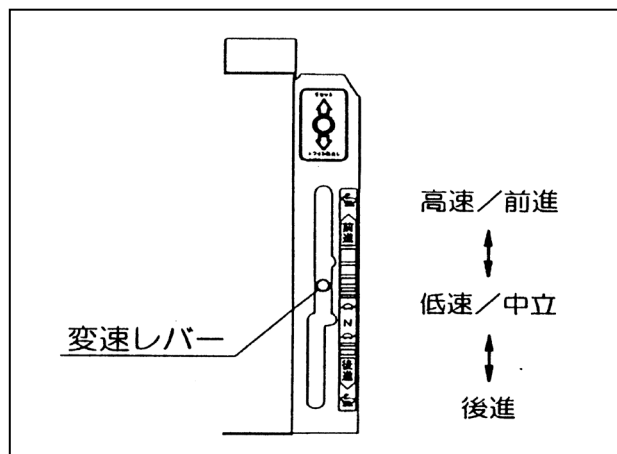


3. 走行クラッチレバー

- ①作業時には、次図のように走行クラッチレバーを前に倒し「入」の状態にすると走行することができます。
- ②停止するときは、走行クラッチレバーを手前に引き、「切」の状態にすると本機の走行が停止します。



4. 前後進変速レバー



- ①本機の前後進、および走行速度の変速は、このレバー1本の操作でできます。
- ②変速レバーを進行方向に向かって前方へ倒すと本機は前進します。
- ③変速レバーを進行方向に向かって手前へ倒すと本機は後進します。
- ④前進、および後進のいずれにおいても、この変速レバーの傾け度合に応じて無段階に車速が速くなります。

⚠ 危険

前進から後進、あるいは後進から前進に切り換えるときは、必ずこのレバーを一旦中立の位置に戻してから操作してください。急激な切り換えは、大変危険です。

《速度の目安》

	前 進	後 進
車 速	0～3.5km/h	0～2.5km/h

※作業速度は使用条件により誤差が発生します。

注意

- 寒冷時には、HSTミッション内部のオイルが暖まるまで暖気運転を行ってください。
- ウインドローの大きさに応じた速度で作業してください。

運転に必要な装置の取扱い

(同じ一列のウインドローの中でも、ウインドローが大きい場所では減速する等)
作業速度が速すぎると、詰まりの原因となり能率の良い梱包作業ができません。

5. サイドクラッチレバー

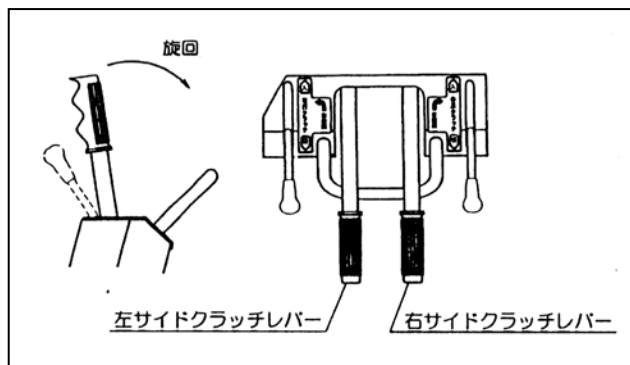
右に旋回するときは、右サイドクラッチレバーを手前に引き、左に旋回するときは、左サイドクラッチレバーを手前に引いてください。

注意

- 旋回時以外は、左右のサイドクラッチレバーから手を放してください。
(走行ミッションのクラッチ爪の消耗を早めます。)
- 砂利道やぬかるみでの急旋回は、クローラへの石や泥の噛み込みの原因となりますので行わないでください。

！危険

高速走行時、サイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して大変危険です。

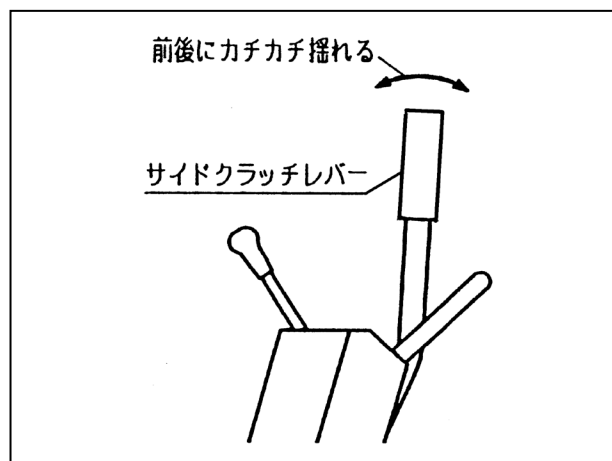


！危険

左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると車体が急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。

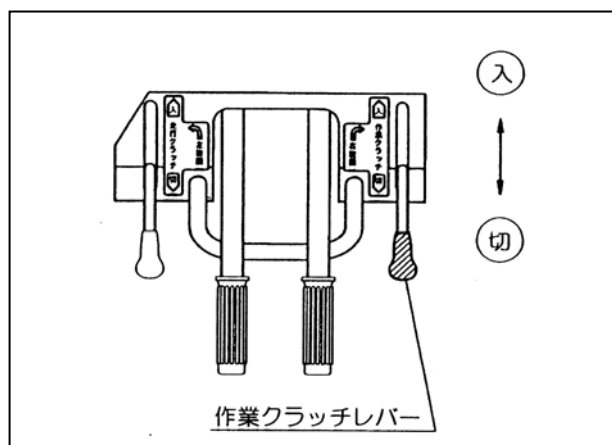
注意

- 旋回時に、走行ミッションが半クラッチの状態(サイドクラッチレバーを引いている時にレバーが前後にカチカチ揺れる状態)では旋回しないでください。
レバーが揺れる場合は、レバーをさらに引いて、機体を旋回させてください。
- 旋回時に、走行ミッションが半クラッチになる頻度が高いと、走行ミッションが破損するおそれがあります。



6. 作業クラッチレバー

作業クラッチレバーを次図の状態から前方の「入」位置の方向へ倒すと作業クラッチが付き、ベアラ部が回転します。



注意

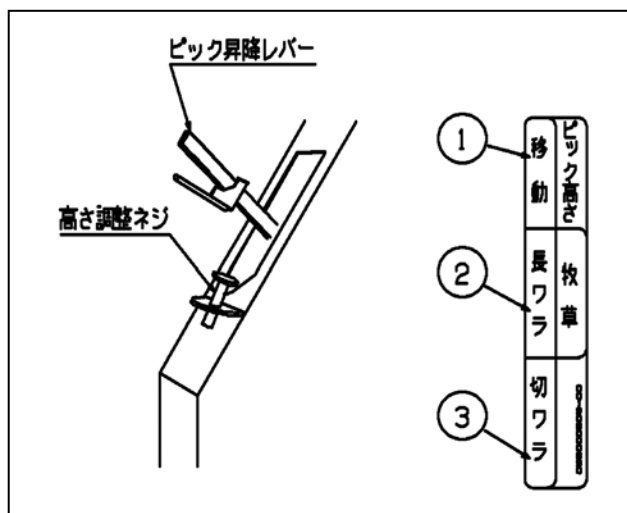
- エンジンがアイドリング状態で作業クラッチを「入」にすると、エンジンがストップする場合があります。

運転に必要な装置の取扱い

- エンジンの回転速度を少し上げてから、作業クラッチをゆっくりとつないでください。

7. ピック昇降レバー

- ピック昇降レバーで目的に合わせてピックの高さを調節してください。



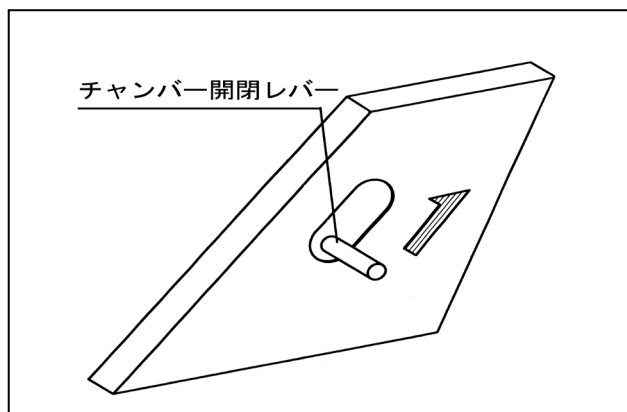
- ①移動・あぜ越え等
- ②長ワラ・牧草
- ③切ワラ

- ピック最下段(③の位置)でのピック高さの微調整は高さ調整ネジで行ってください。

注意

移動やあぜ越え、トラックへの積み込み時は、必ずピックを最上段まで上げてください。

8. チャンバー開閉レバー



- ベアラ部が回転している状態でレバーを引くと、チャンバーが開きます。

注意

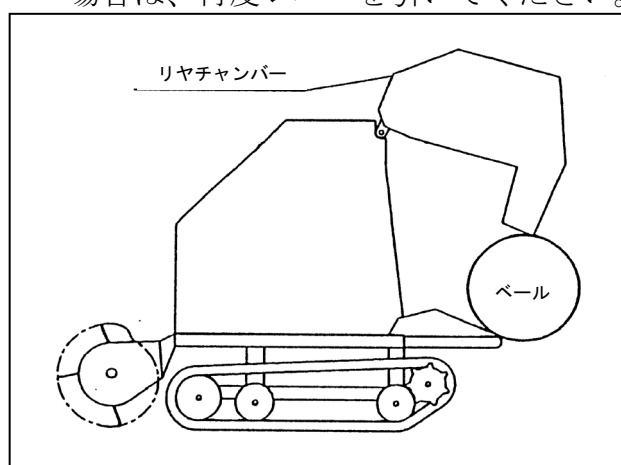
レバーは軽く1回引いてください。

- チャンバーが開いた後に再度レバーを引くと、チャンバーが閉まります。

注意

チャンバーの開閉時にレバーを引き続けないでください。

- 次図のように、チャンバーを閉じた時にチャンバーの間にボール等が詰まった場合は、再度レバーを引いてください。



9. 梱包圧感知装置の取扱い

◆梱包圧感知装置の装備位置

12、13ページに示すように梱包圧感知装置を装備しています。

◆梱包圧感知装置の作用

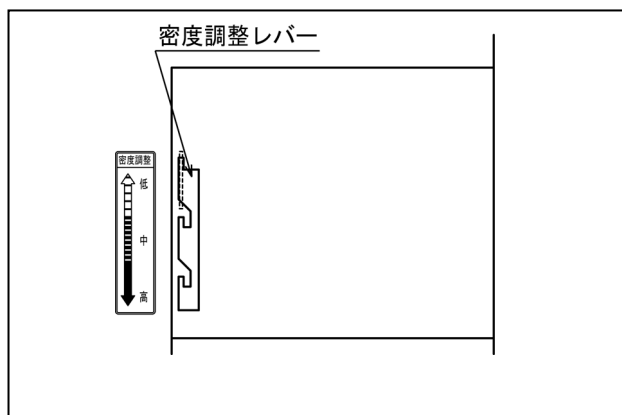
梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、ネット/トワインの自動繰り出しに連動します。

運転に必要な装置の取扱い

10. 密度調整レバー

リヤチャンバーに装備している密度調整レバーにより、ベールの梱包密度を4段階に調整できます。

レバーを上げると密度が低くなり、レバーを下げると高くなります。



11. トワイン自動繰り出し装置

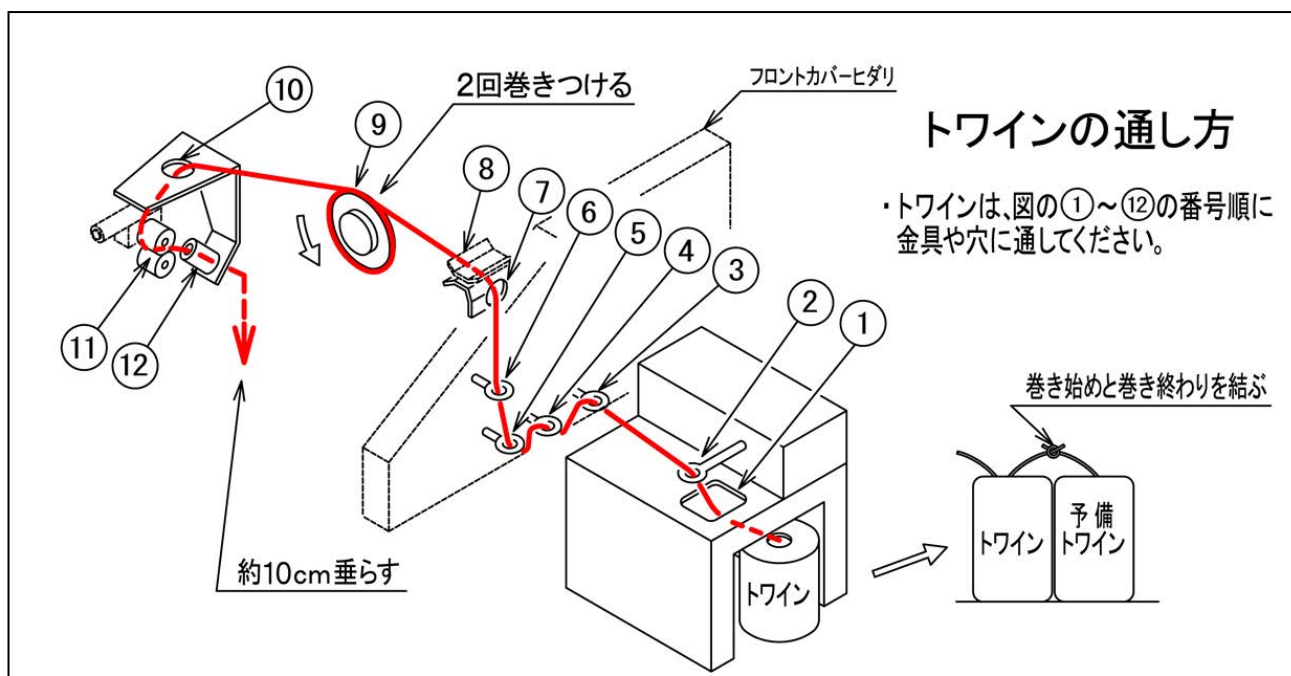
(SR-613DT)

◆トワイン自動繰り出し装置の作用

あらかじめ設定しておいたベール成形時の圧力が梱包圧感知装置で感知されると、ブザーが鳴り、自動的にトワインが繰り出され、ベールにトワインが巻き終わると自動的にトワインが切断されます。

12. トワインの通し方 (SR-613DT)

- (1) 次図のように座席の下にトワインをセットしてください。
- (2) フロントカバーヒダリをはずしてください。

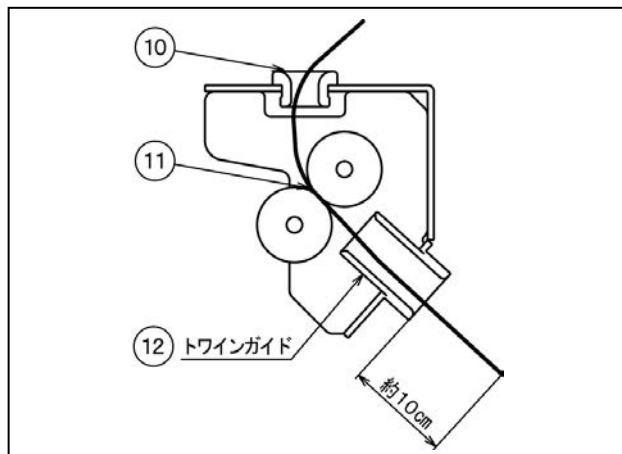


運転に必要な装置の取扱い

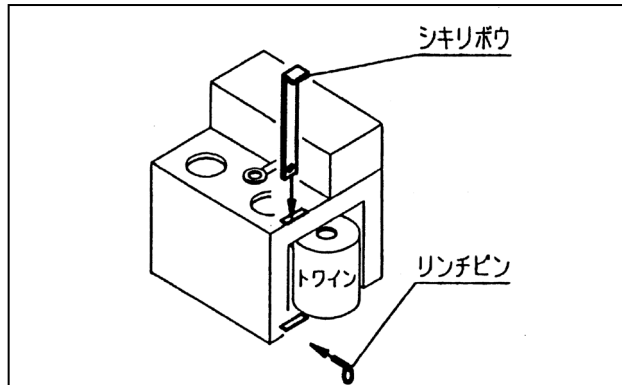
(3) 図中の番号順に、金具や穴にトワインを通してください。

※⑨段付きプーリにはトワインを反時計方向に2回巻き付けてください。

(4) ⑫トワインガイドを通ったトワインが、ガイドより約10cm程度出るようにセットしてください。



◆12000フィートのトワインを使用する場合
次図のようにシキリボウを上から差し込んでください。



13. トワイン巻付けピッチ調整の仕方 (SR-613DT)

成形したボール外周に巻付けるピッチの調整は、トワインを巻付ける段付きプーリの径を変えることで行います。

段付きプーリ	大	小
巻き付けピッチ	狭い	広い
成形する草の長さ	短い草	長い草

14. トワイン案内金具の位置確認

(SR-613DT)

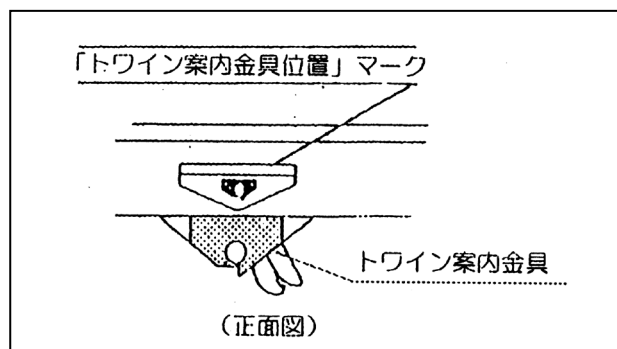
◆トワイン案内金具スタート位置合わせ

作業前に必ず、トワイン案内金具をスタート位置マークに合わせてください。

(段付きプーリを手で回転させて位置を合わせてください。)

注意

位置合わせをしないと、トワインの無駄巻きと巻付け時間が長くなります。



15. トワインのリセット装置

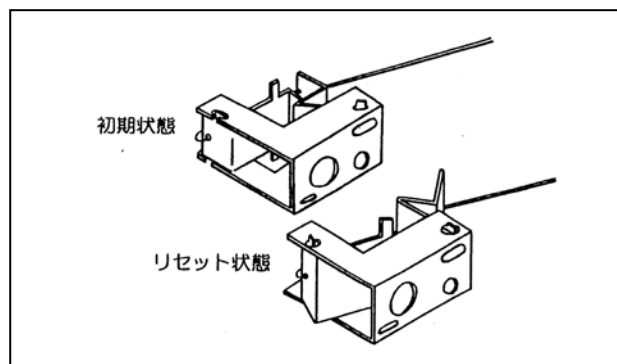
(SR-613DT)

◆リセット装置の作用

右フロントカバーを開くとリセット装置があります。

ボール成形が完了するとブザーが鳴り、トワインが繰り出されます。

トワイン巻きが始まるとブザーが鳴り止み、チャンバーを開けるとリセット装置が元に戻り、次の作業に備えます。



◆作業前にはチャンバーを

開閉してください

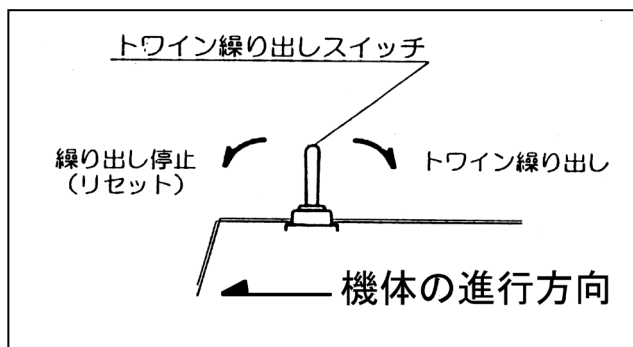
リセットスイッチのリセット(初期状態)と動力関係の確認も同時にできます。

運転に必要な装置の取扱い

注意

必ず、トワイン案内金具をスタート位置に合わせてからチャンバーを開閉し、リセットしてください。

16. トワイン繰り出しスイッチ (SR-613DT)



ほ場での作業終了時に、草量が少なくベール成形感知まで至らない場合など、手動でトワインを繰り出したい時は、上図のようにスイッチを1回手前へ倒すとトワインが繰り出されます。

異常感知してトワインが繰り出された時には、前方へスイッチを倒してトワインの繰り出しを停止してください。

注意

チャンバー内で回転しているベールにトワインが巻き付いている状態では、スイッチを前方へ倒してもトワイン繰り出しは止まりません。

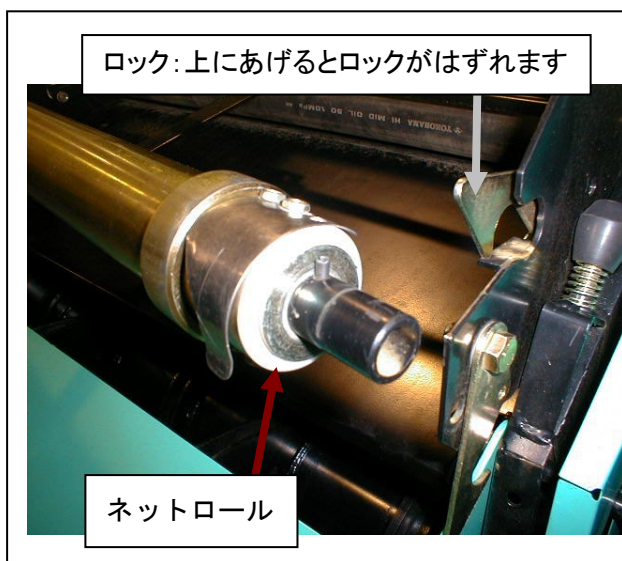
17. ネット自動繰り出し装置(SR-613DN)

◆ネット自動繰り出し装置の作用

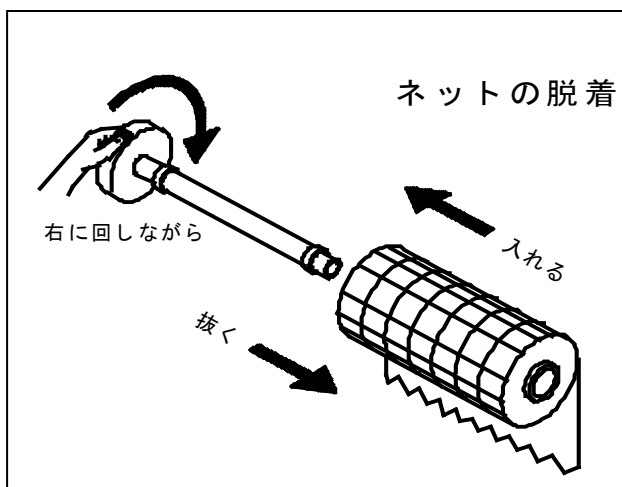
あらかじめ設定しておいたベール成形時の圧力が梱包圧感知装置で感知されると、ブザーが鳴り自動的にネットが繰り出され、巻き終わると自動的にネットが切断されます。

18. ネットの脱着方法 (SR-613DN)

① ネットロールのロックをはずしてネットロールを手前に引き出してください。



② ネットロールを時計(右)回りに回しながらネットを装着した後、ネットロールを元どおりロックしてください。



ネットを外すときもネットロールを時計(右)回りに回しながらはずしてください。

警告

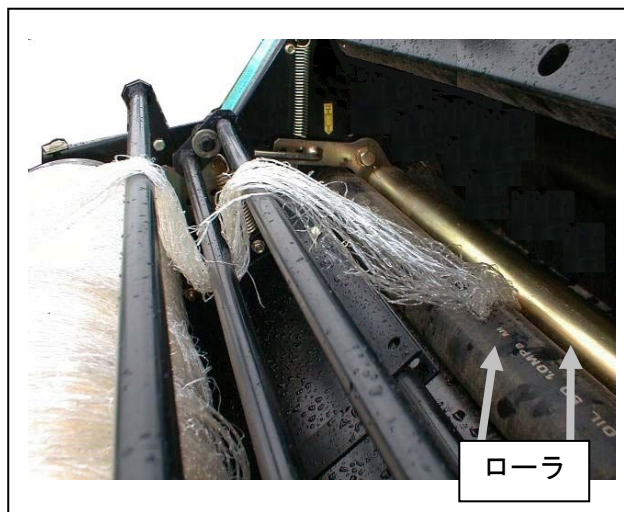
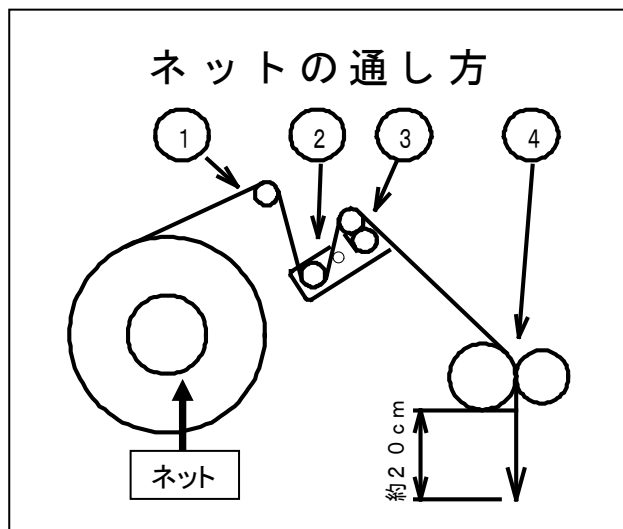
ネット脱着時は必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。

これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

運転に必要な装置の取扱い

19. ネットの通し方 (SR-613DN)

ネットを80cm程手前に引き出した後、図のようにネットを通してください。



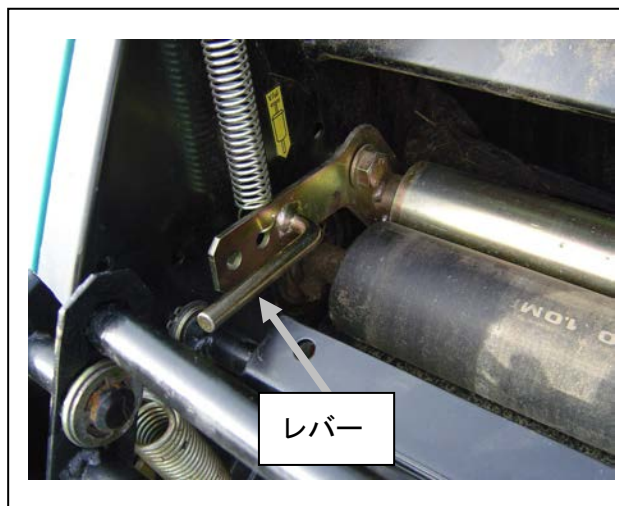
ネットの先は2つのローラの間に入れてください。(2つのローラの中にネットを入れて、手で2つのローラを回すと入っていきます。その際、ネットは横に広がっていかなくてもかまいません。)

警告

ネットを通す時は必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

20. ネットの外し方 (SR-613DN)

ネットを外す時は、次図のレバーを下へ押しながらネットを引っ張り出すとネットが外れます。(はずれにくいときは反対側も押してください。)



警告

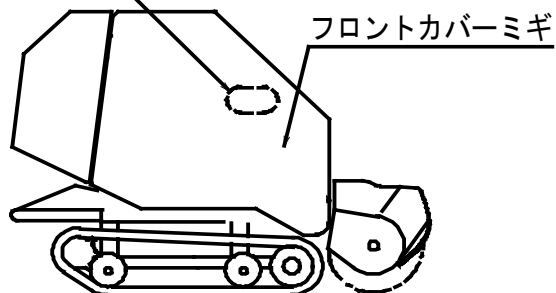
ネットを外す時は、必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

21. ネットの巻き数設定 (SR-613DN)

成形したベールの外周に巻付けるネットの巻き数(巻き時間)を設定します。(巻き数が多い程、ベールが固く締まります。) フロントカバーミギをはずし、巻き数設定装置のノブボルトを回して、巻き数設定表に従い、タイマーネジに対するタイマーナイフの寸法(A寸法)を設定してください。

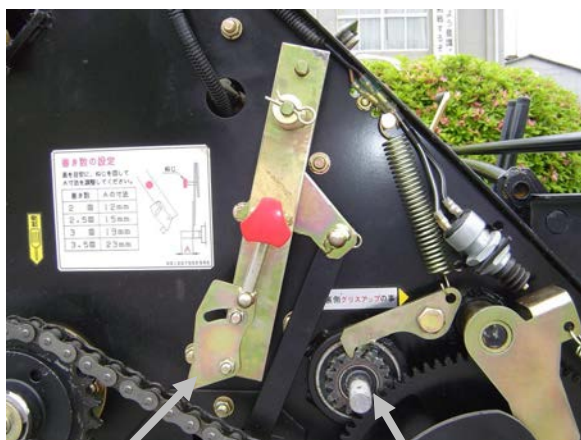
運転に必要な装置の取扱い

「巻き数設定装置」取り付け部



フロントカバーミギ

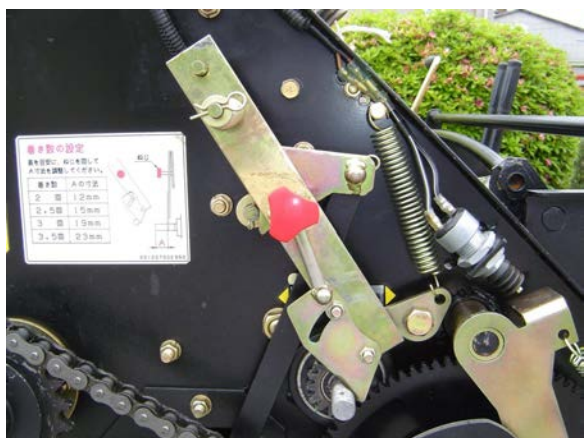
巻き数設定装置(通常状態)



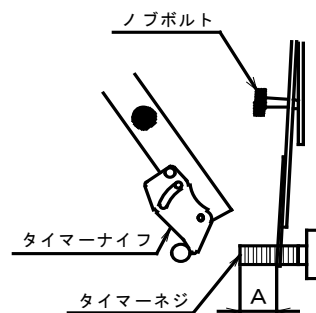
タイマーナイフ

タイマーネジ

巻き数設定装置(ネット繰り出し状態)

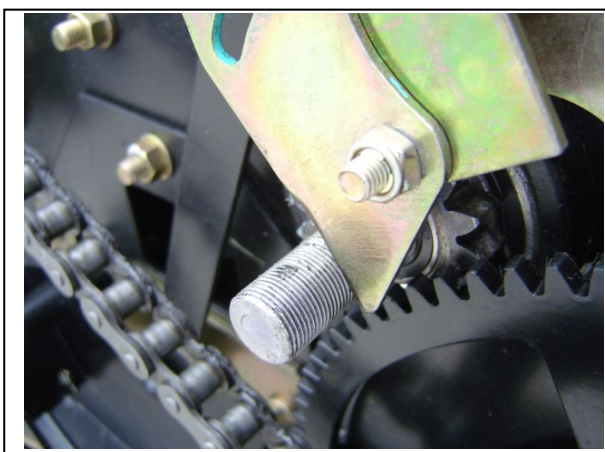


表を目安に
ノブボルト
を回して、
A寸法を調整
してください。



巻き数		A寸法
ネット	2 回	12mm
	2.5回	15mm
	3 回	19mm
	3.5回	23mm

A 寸法はタイマーナイフがタイマーネジに乗っている時の寸法です。



警告

ネットの巻き数設定時は、必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。

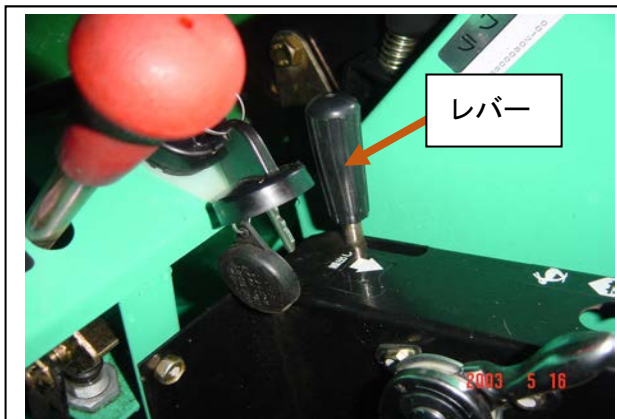
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

注意

ネットの巻き数設定を行った後は、必ずタイマーナイフを通常状態に戻してください。

運転に必要な装置の取扱い

2 2. ネット繰り出しレバー (SR-613DN)



手でネットを繰り出したい時は、レバーを手前に軽く1回引くと、ネットが繰り出されます。

注 意

繰り出し中のネットを止める場合は、作業クラッチ(またはエンジン)を停止してください。

2 3. タイトチェーン注油装置の取扱い

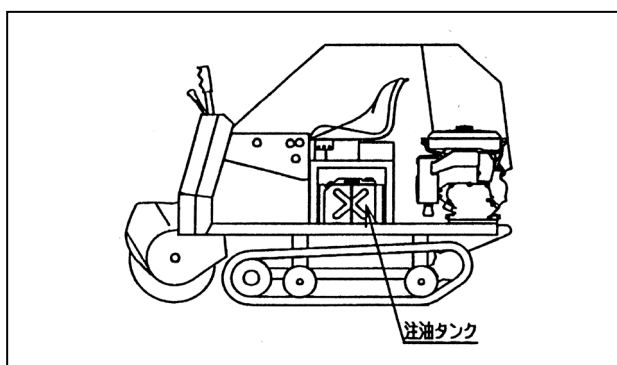
本作業機は、リヤチャンバーを開閉させるとタイトチェーンに油が注油されます。

◆作業前には必ず注油してください

作業前には、ベアラ部を回転させながらチャンバー開閉レバーを引き、リヤチャンバーを4～5回開閉させてください。

◆作業中は油の残量に注意

注油タンク内のオイル残量には、特に注意し、少なくなれば補給してください。



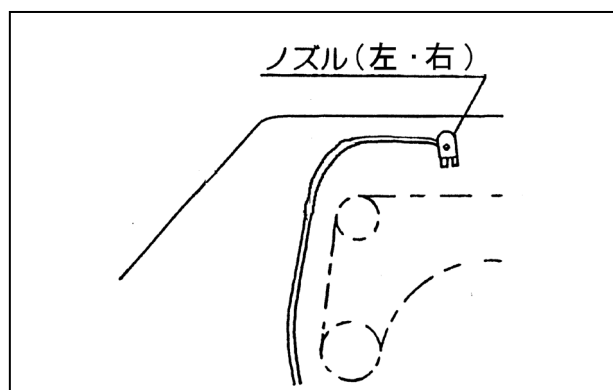
注 意

注油タンクのオイル不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆定期的にノズルの清掃を

行ってください

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用すると、チェーンへ注油されないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。



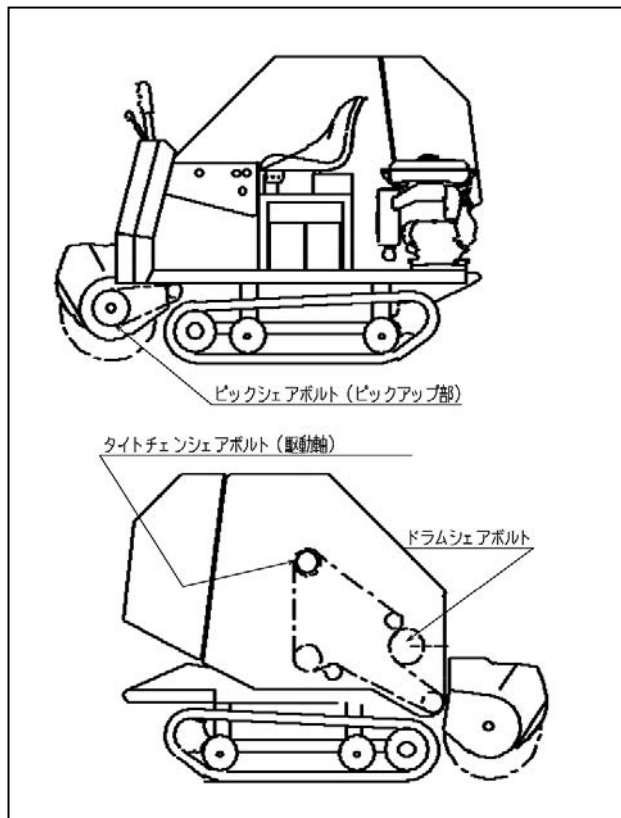
! 警 告

点検・清掃は必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。

これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

運転に必要な装置の取扱い

24. 安全装置の取扱い



◆シェアボルト(3箇所)

本機には、安全装置として駆動軸とピックアップ部、ドラムの3箇所にシェアボルトがあります。

切損した場合、必ずエンジンを停止してから交換してください。使用するボルトは駆動軸とピックアップ部はM8×30(4T全ネジ)、ドラムはM8×30(11T全ネジ)です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因となりますので絶対にやめてください。

◆シェアボルトがよく切損する場合

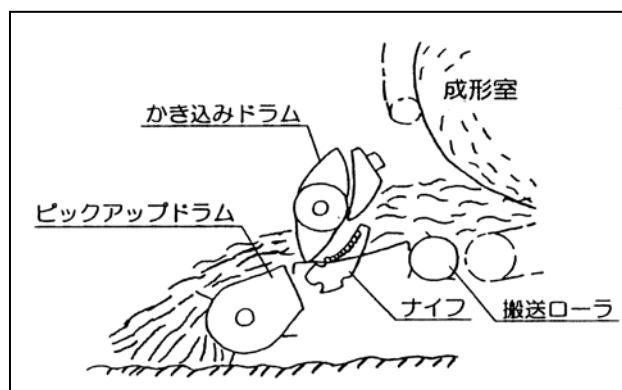
ウインドローが大きい場合は、作業速度を遅くしてください。

凸凹の多いほ場では、ピックアップを上げてタイヤが地面と接触しないようにしてください。

25. 切断装置の取扱い

◆切断装置について

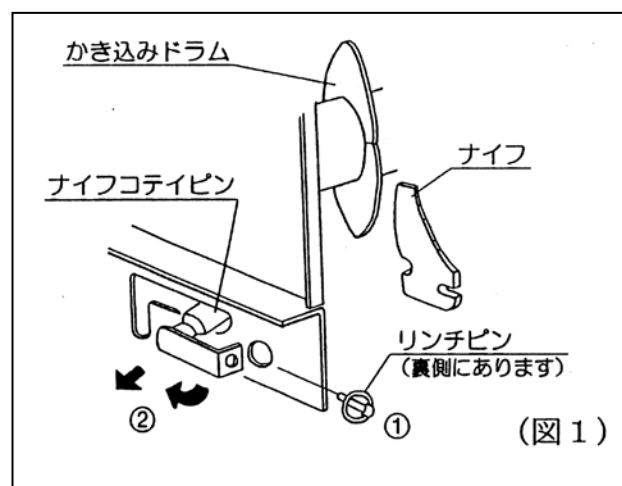
図のように牧草(稲ワラ、麦ワラ)は、ピックアップドラムにより拾い上げられた後、かき込みドラムと3枚のナイフの間で圧縮、切断(理論切断長:16cm)されると同時に成形室に送られ、バールが形成されます。



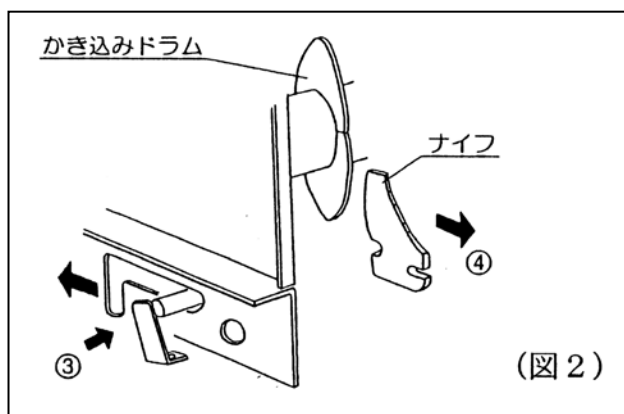
◆ナイフの取り外し(取り付け)方法

次図(図1、2)のように、

- ①リンチピンを外してください。
- ②ナイフコティピンを少し手前に出した後に、反時計回りに少し回してください。
- ③ナイフコティピンを奥に押し込んだ後に、図の矢印の方向へずらしてください。
- ④作業機の前側からナイフを外してください。



運転に必要な装置の取扱い



ナイフを取り付ける時は、①～④を逆の順番で行ってください。

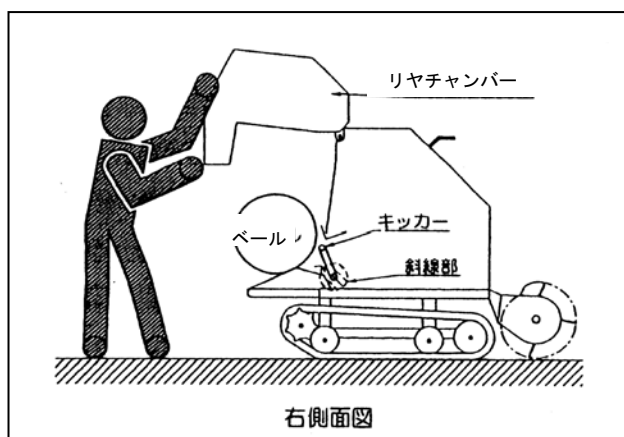
！ 警告

ナイフの取り付け、取り外しは、必ず作業機のエンジンを停止してから行ってください。

26. キッカーの取扱い

◆キッカーについて

本作業機はベール成形後のベール放出を行うため、キッカーを装備しています。

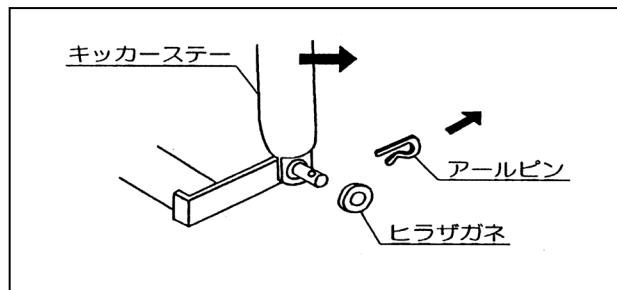


◆リヤチャンバーを手動で開けるときの

チャンバー内に草が詰まり、ベール部が回転しなくなった場合(シェアボルトが切断されていないとき)、リヤチャンバーを手動で開けることができます。

次図のように

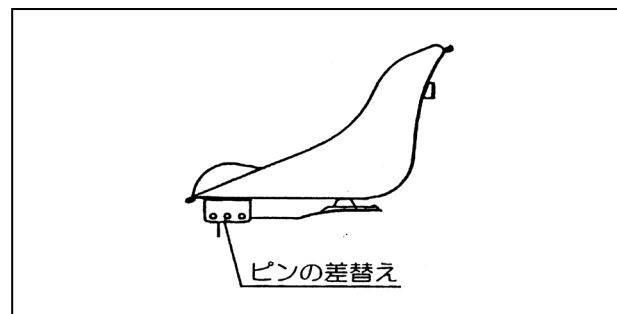
- ①アールピンとヒラザガネを外してください。
- ②キッカーステーを外した後、リヤチャンバーを手で引き上げてください。



！ 警告

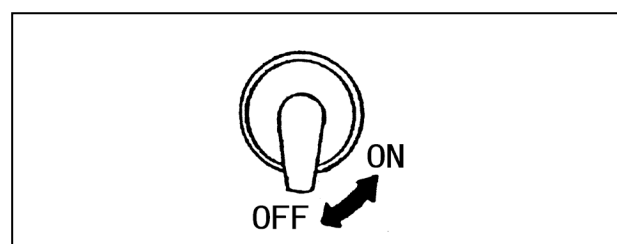
リヤチャンバーを手動で開ける時は、作業機のエンジンを停止してから行ってください。

27. シート



シートは取付部のピンを挿し替えることで、前後3段階の調節ができます。

28. ライトスイッチ



キースイッチが「ON」の状態ですwitchを「ON」にするとLEDライトが点灯します。

運転に必要な装置の取扱い

注意

エンジンが停止している状態で長時間ライトを点灯させないでください。バッテリー上がりの原因となります。

29. ワラが詰まる場合

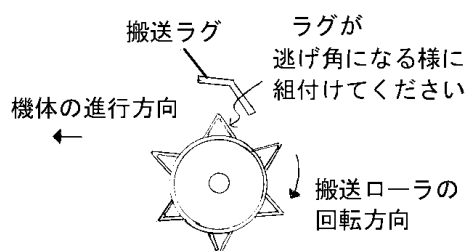
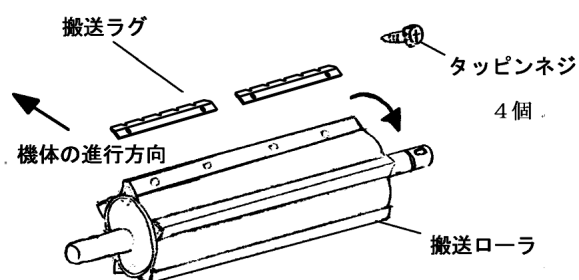
2条刈りコンバインのバラ落しで、ワラの稈長が90cmを超える等、搬送ローラ部にワラが詰まる場合は、搬送ローラに搬送ラグ(標準装備)を組付けていただくと、詰まりにくくなります。



警告

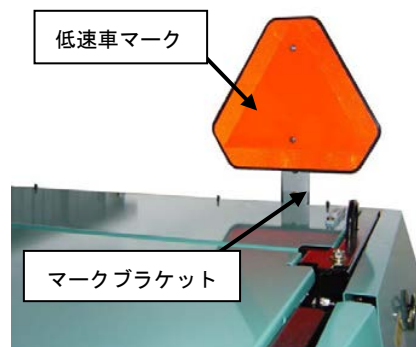
搬送ラグを組み付ける時は、作業機のエンジンを停止してから行ってください。

◆組付け要領



30. 低速車マークの装着

本機は、後続する自動車との追突事故を防止し、運転者の安全性の向上を図るためお客様が低速車マークを別途購入されて本機に装着する場合に備えて、低速車マークの取り付けブラケットを付属しています。

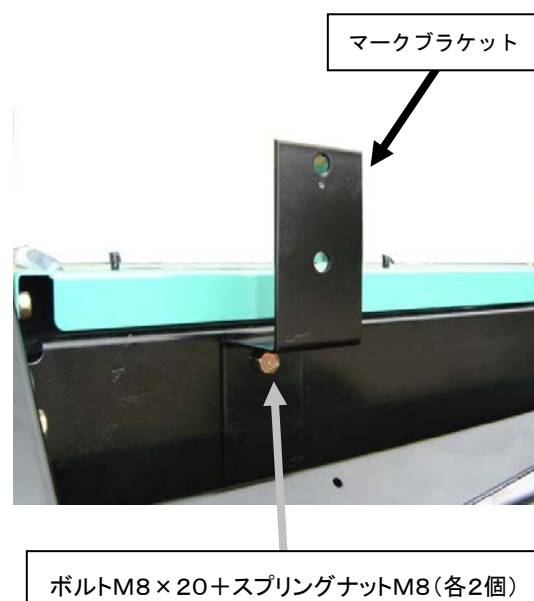


警告

ブラケットを組み付ける時は、本機のエンジンを停止してから行ってください。

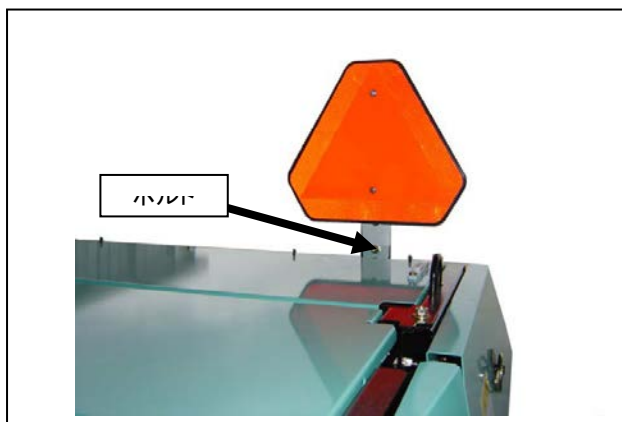
◆組付け要領

- ①ボルトM8×20とスプリングナットM8をそれぞれ2個用いて、ブラケットを本機へ組み付けてください。

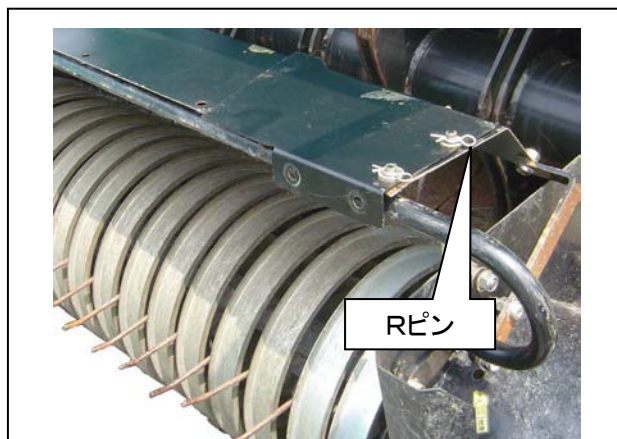


運転に必要な装置の取扱い

- ②さらに、ボルトM8×20とスプリングナットM8をそれぞれ2個用いて、低速車マークをブラケットへ組み付けてください。



(再度作業状態に戻す場合は、上記と逆の手順で行ってください。)

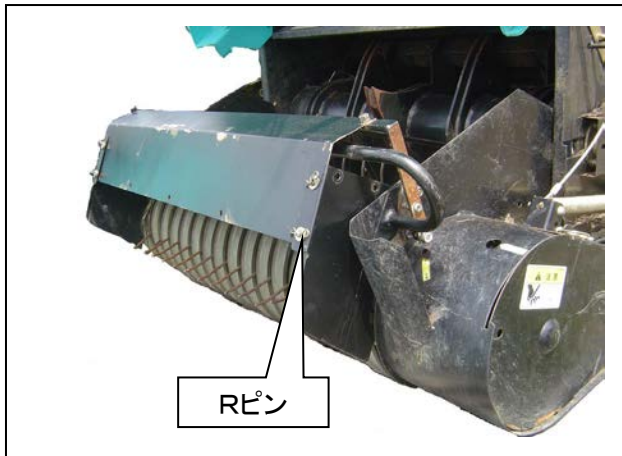


警告

切りワラカバーの操作時には、必ず作業機のエンジンを停止してください。

3 1. 切りワラ作業の場合

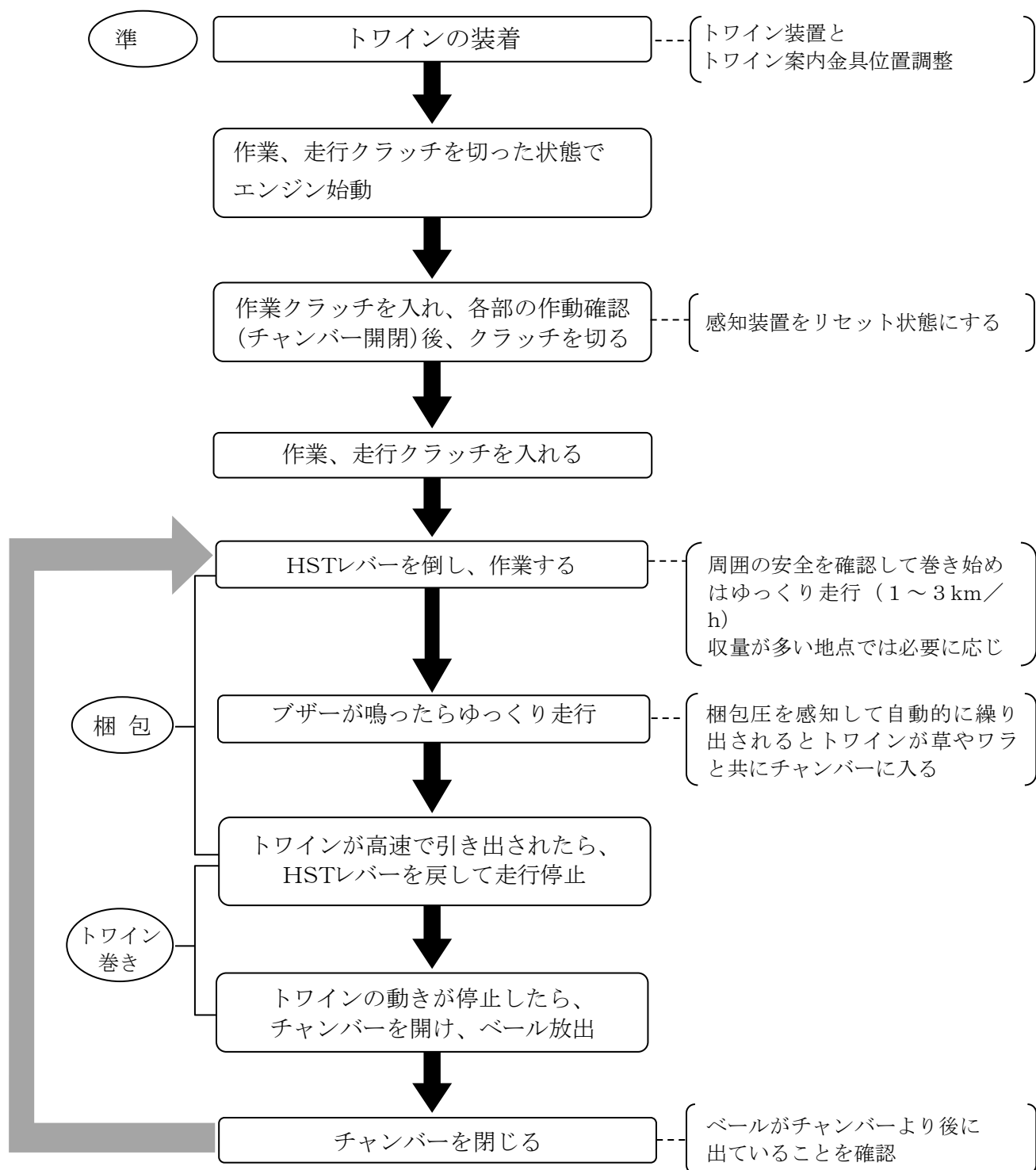
- ・切りワラ作業の場合は、ピックアップ部の前にカバーを降ろして作業してください。
- ・降ろさないと、切りワラを前に飛ばしてしまい拾い上げの効率が悪くなります。



- ・それ以外の作業時には格納してください。
- ・格納方法については以下の通りです。
 - ①側板を止めているRピンをはずす。
 - ②側板をはずし格納状態にして、再度Rピンで固定する。
 - ③カバーをフックがかかるまで上に持ち上げる。

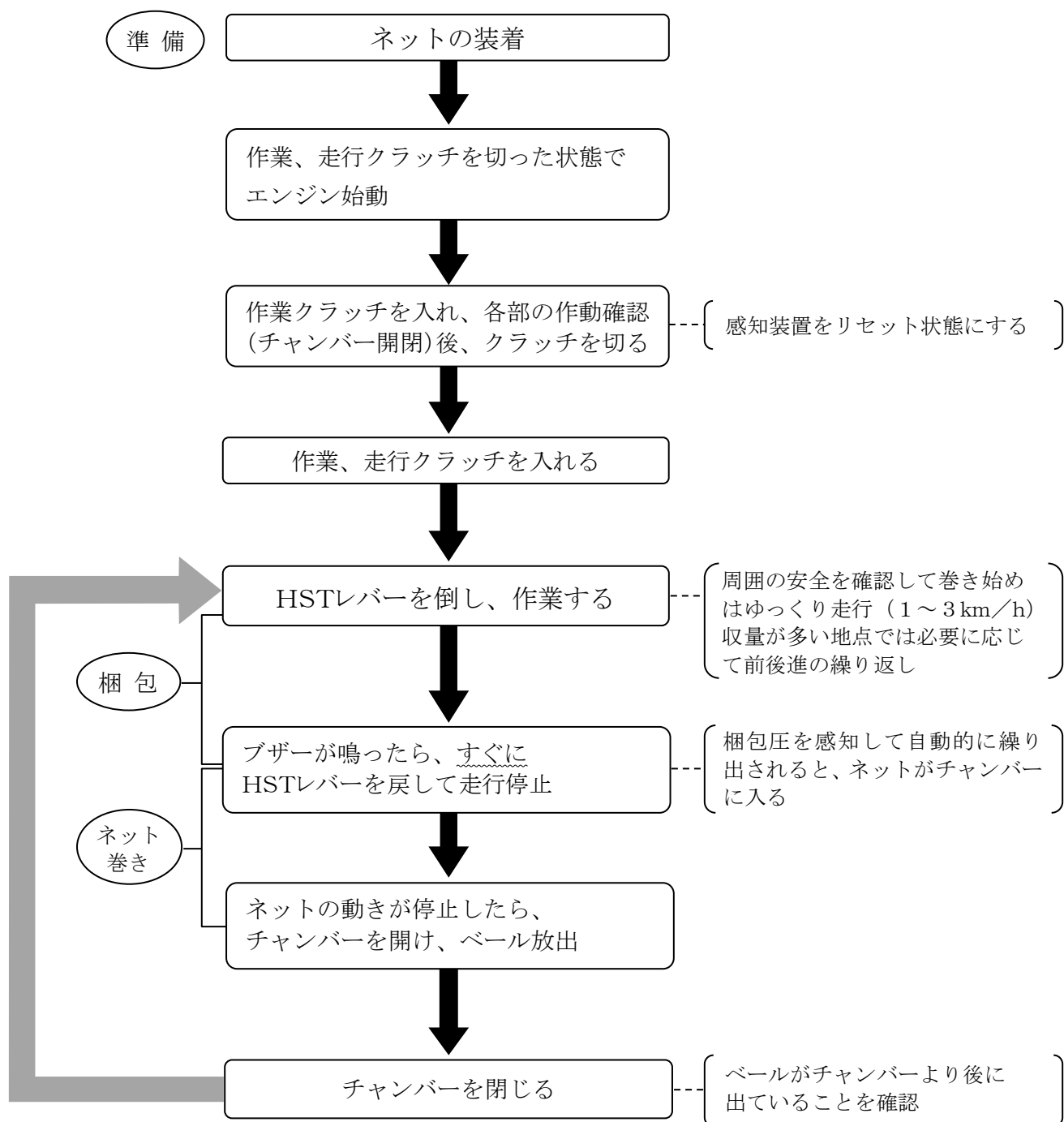
作業方法

1. 作業手順と要点 (SR-613DT)



作業方法

2. 作業手順と要点 (SR-613DN)

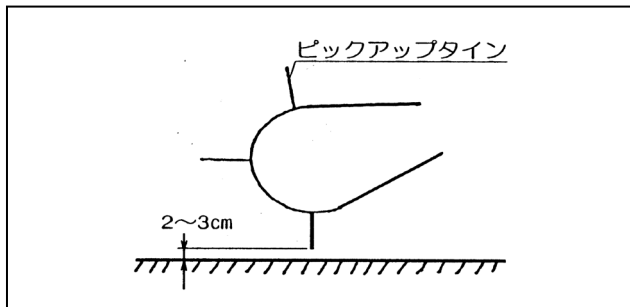


作業方法

3. ピックアップドラムの高さ調整

◆拾い上げ高さ調整

ピックアップドラムの拾い上げ高さはピックアップタインが地上から約2～3cmが基準ですが、ほ場の状態に合わせてピックアップ昇降レバーで調整してください。



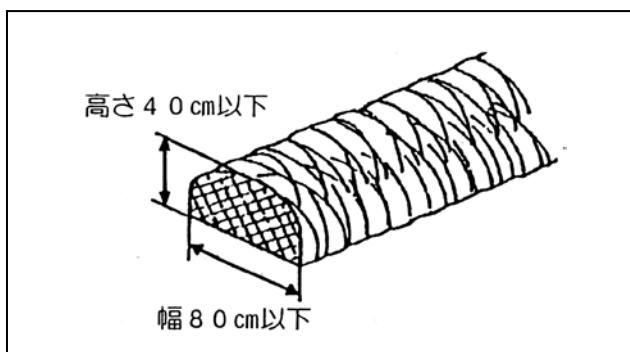
4. 牧草の拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、次図に示す大きさに、できるだけ均一なウインドローにしてください。



注意

ウインドローが大きすぎると詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業してください。

5. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法

◆切断ワラを拾うときは

ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり拾い残しも少なくなります。

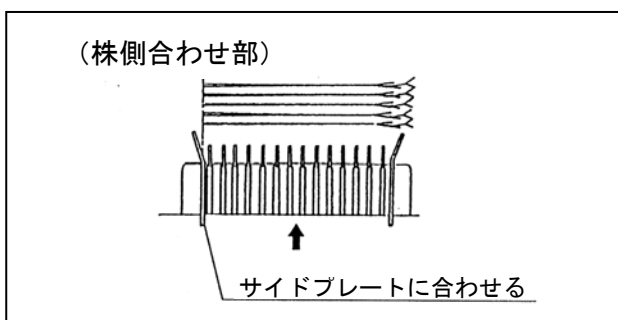
この場合、6～8条分を集めてウインドローを作ってください。

(ウインドローの大きさおよび梱包作業は、前項を参考にしてください。)

◆長ワラ・立ちワラを拾うときは

(3・4条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは)

長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行してください。



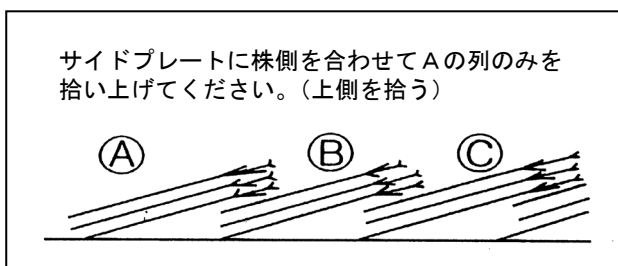
注意

ワラ中央部や穂先をサイドプレートに合わせると、形の悪いベールになり、放出するのに時間がかかるためトワインの緩みの原因となります。

◆2条刈コンバインの長ワラ

たれ流しのときは

刈り取り後のワラは重なった状態となっています。次図のA、B、Cの順序で拾い上げてください。



作業方法

注意

A、Bを同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

また、ワラの長さが80cm以上のときはAとBの重なりが多くなるため、Bのワラを引きずり込みます。これが原因で詰まりが発生しますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

6. 梱包作業方法

◆対象作物の種類、量に合わせて

作業速度を選定

長ワラや水分の多い牧草を拾い上げるときは、通常より速度を下げて作業してください。

注意

作業速度が適切でないと詰まりの原因となり能率の良い梱包作業ができません。ウインドローの大きさに応じた速度で作業してください。

- ・ 同一列のウインドローの中でもウインドローが大きい場所では減速する。または一旦後退する。

7. 結束時の注意① (SR-613DT)

- ベールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、トワインが自動的に繰り出されます。ブザーが鳴ったら速度を下げて走行してください。

注意

自動繰り出しされるトワインは、拾い上げた作物と共にチャンバー内に送り込まれるようにしてください。走行を停止したり、拾い上げ作物がない状態で繰り出すと、チャンバー内に送り込まれず結束ができないばかりか、搬送ローラに巻き付くトラブルの原因となります。

◆トワインの動く速度が

早くなったら走行停止

自動繰り出しされたトワインがチャンバー内のベールに巻かれると、トワインの動く速度が早くなりますので走行を停止して結束が完了するのを待ってください。

◆結束完了

設定の巻き付けピッチによるトワイン結束が終わると、トワイン繰り出しが停止します。チャンバー開閉レバーを引いてベールを放出してください。

8. 結束時の注意② (SR-613DN)

◆ネット巻きの初回は手動繰り出し追加

ネットロールを新規に装着した直後はネットの先端が広がっていないので、ベールの両端まで巻けない場合があります。ネット巻きの初回は、ネットが自動で繰り出しを終えた後、さらに1回手動繰り出しを行うことをおすすめします。

◆SR-613DNではオーバーラン禁止

ベールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、ネットが自動的に繰り出されます。ブザーが鳴ったらすぐに走行を停止してください。

(草量が多く、走行を停止してもさらに草を拾い上げる場合は、本機を一旦後退させてください。)

注意

オーバーランすると草がネットの間に入り、ベールがきちんと巻けません。

積み降ろし運搬・移動

1. トラック・トレーラへの積み降ろし

- ①トラックおよびトレーラへの積み降ろしは、平坦地を選び、補助者1名の立会いのもとで行ってください。
- ②積み降ろしに使用するアユミ板は滑り止めのある700kg以上の荷重に耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて外れないことを確認してから本機の積み降ろしを行ってください。
- ④積み降ろしのときの車速は、最低速度で安全を確認しながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積み込みは、必ず後進走行で行ってください。

⚠ 危険

積み降ろし時は、必ず本機から降りて行ってください。

2. トラックおよびトレーラでの運搬

- ①本機が運搬中、荷台上で移動しないようクローラに木片などで歯止めをし、機体をロープで荷台に確実に固定してください。
- ②運搬中は、走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

⚠ 危険

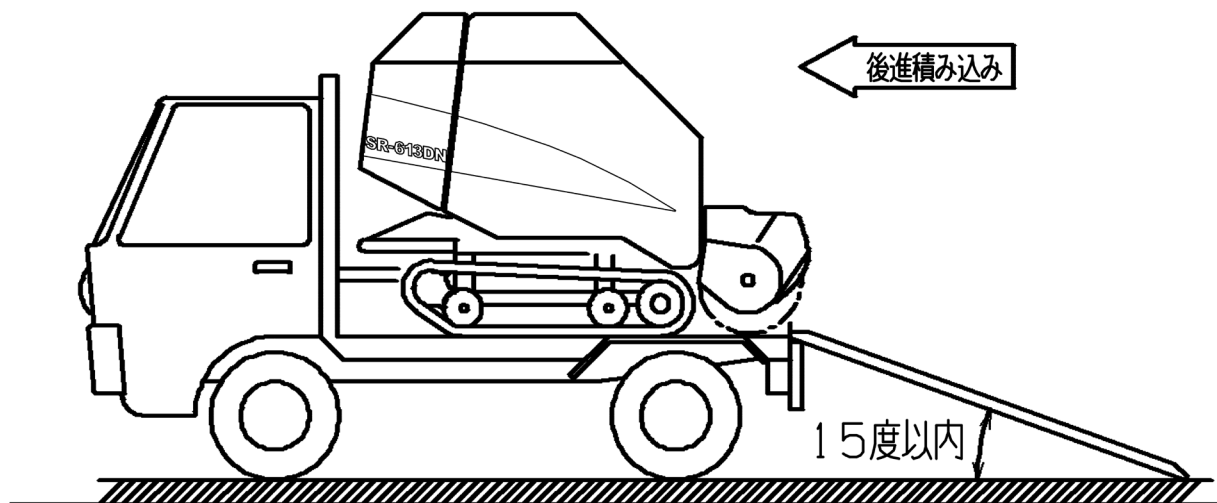
前進積み込みは、重量バランスがくずれやすく危険ですので行わないでください。

3. 移動について

- ・本機の自力走行による長距離移動は機体損傷の原因となるため、長距離移動にはトラックもしくはトレーラをご使用ください。
- ・あぜ越えや田、圃場から出るとき、トラックへの積み込み等、傾斜を登る時は必ず機体から降りて作業機を後ろ向きで走行させてください。前向きで登ると機体が転倒するおそれがあります。また、傾斜を降りる時は、機体から降り、作業機を前向きにして降りてください。

⚠ 危険

重量バランスがくずれやすく危険ですので、傾斜は前進で登らないでください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災の原因となります。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	エンジンの燃料	十分入っているか	別冊説明書	
2	エンジンオイル	規定量が入っているか オイルが汚れていないか	別冊説明書	
3	エンジンのエアクリーナー	汚れていないか	34	
4	走行ミッション	オイル量およびオイルの汚れ	34	
5	HSTミッション	オイル量および暖気運転	35	
6	走行クラッチレバー	入／切の作動確認	15・35	
7	作業クラッチレバー	入／切の作動確認	16・35	
8	左・右のサイドクラッチレバー	スムーズな作動	16・35	
9	駆動チェーン	注油	42	
10	トワイン結束装置のチェーン張り調整	少し遊びがある程度に張る	36	
11	予備シェアボルト	不足の時は補充	24	
12	タイトチェーン給油	VG32オイル給油	23	
13	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	42	
14	クローラ	張り調整	34	
15	満了感知スイッチ	スイッチを入れるとブザーが鳴るか	12・13	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

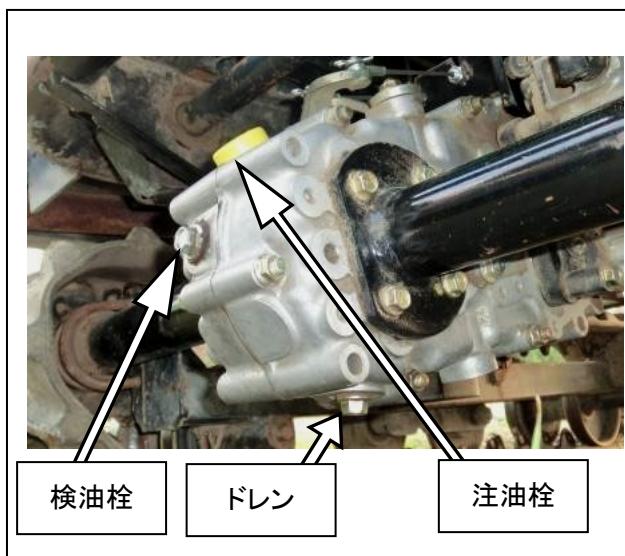
1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全に注意してください。

2. エンジンのエアクリーナ

- ディーゼルエンジンのエアクリーナは乾式濾紙エレメント式のエアクリーナを採用しています。
- 「エンジン取扱説明書」に従い、始業前に点検、清掃、交換してください。

3. ミッションオイルの点検



走行ミッションのオイル交換は、初回は30時間後、2回目以降は年1回シーズン始めに交換してください。

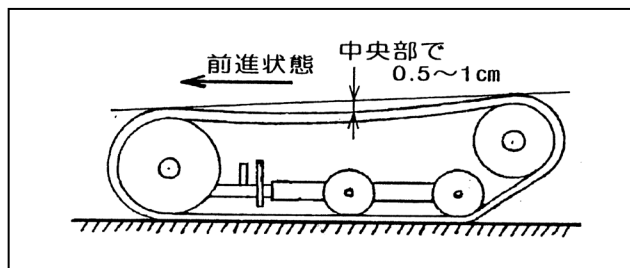
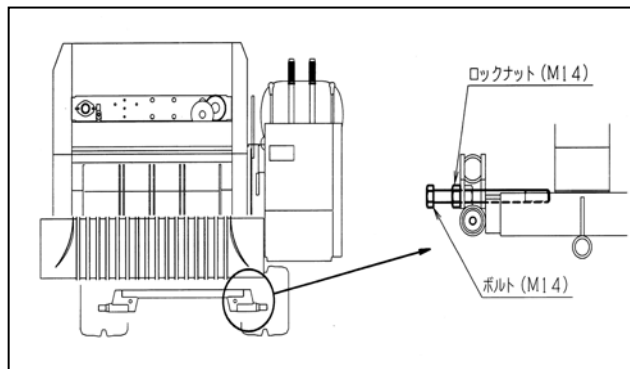
- オイル：ギヤオイル #90
- 油量：約1.1ℓ
(検油栓からあふれるまで)

4. クローラの張り調整

クローラは使用している間に伸びと摩耗により、たわみが大きくなります。定期的なたわみ量を確認し、調整してください。

※調整方法はロックナットを緩め、ボルトを締め込みます。

クローラの張り具合は、本機を前進状態で停止させ、クローラ上に定規を置き、中央でたわみ量は0.5～1cmが適正です。調整は、必ず左右のクローラを均等に行ってください。



注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以後の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。
作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。
また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。
土噛みは放置しておく、クローラの異常張力の原因となり、走行ミッションおよび走行部の損傷をまねきます。

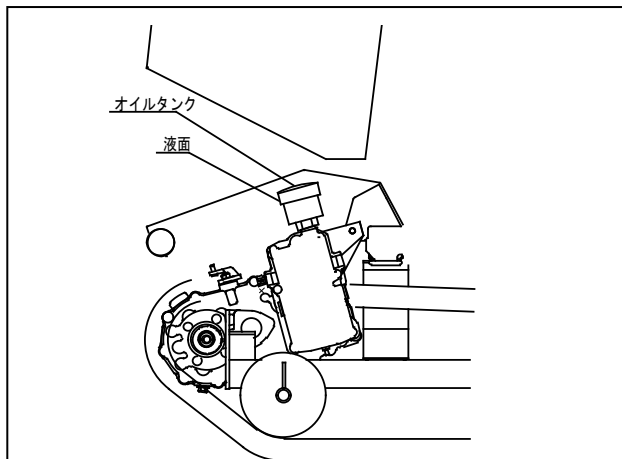
簡単な手入れと処置

5. HSTミッションのオイル管理

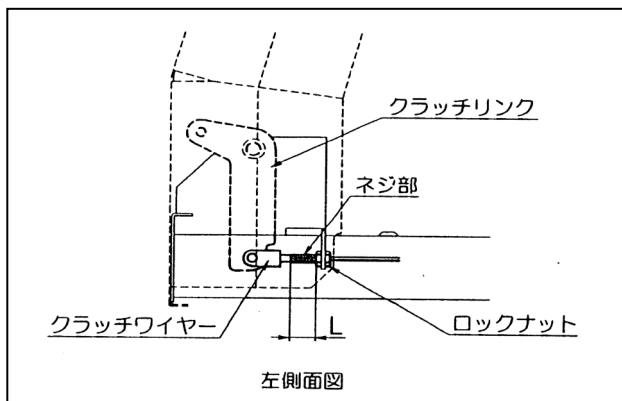
- 毎日の作業前にはオイル漏れがないか、オイルタンクのオイル量が適量かどうかを確認してください。
- オイル量が不足している場合は、オイルタンクの表示位置まで指定のオイルを補給してください。

※HST用指定補給オイル：

SAE 10W-30 CD級エンジンオイル、
もしくは、ISO VG46 耐摩耗性作動油



6. 走行クラッチ・作業クラッチの調整



使用している間にクラッチワイヤーの伸びや各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- 「入」の時にVベルトが駆動し、「切」の時にVベルトが停止すれば正常です。
- 「入」の時にVベルトがスリップするようなら、クラッチワイヤー両端のネジ部のL寸法が短くなるようにスパナで調整してください。

- 「切」の時にVベルトが停止しない場合は、逆にL寸法が長くなるようにスパナで調整してください。

注意

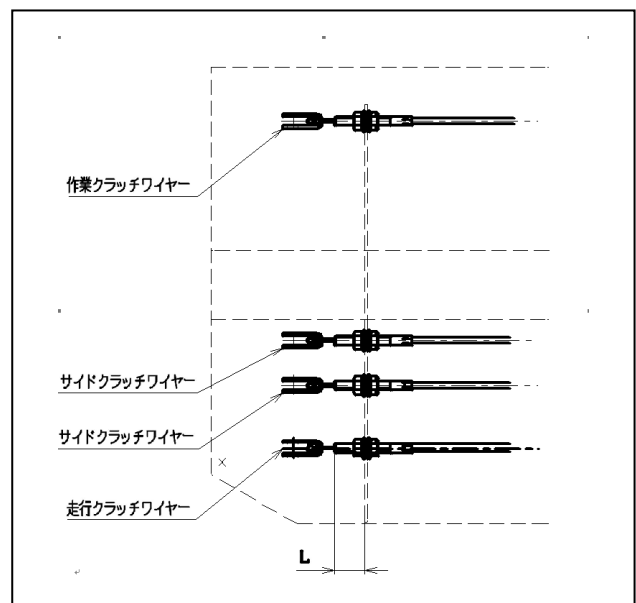
調整しても、各クラッチレバーが「入」状態でVベルトがスリップする時は、Vベルトの交換もしくはクラッチワイヤーの交換が必要です。

販売店へご相談ください。

警告

作業前には必ず走行クラッチ、作業クラッチの作動確認を行ってください。
緊急時にクラッチが切れないと、重大な傷害が生じる危険があります。

7. 左右のサイドクラッチレバー

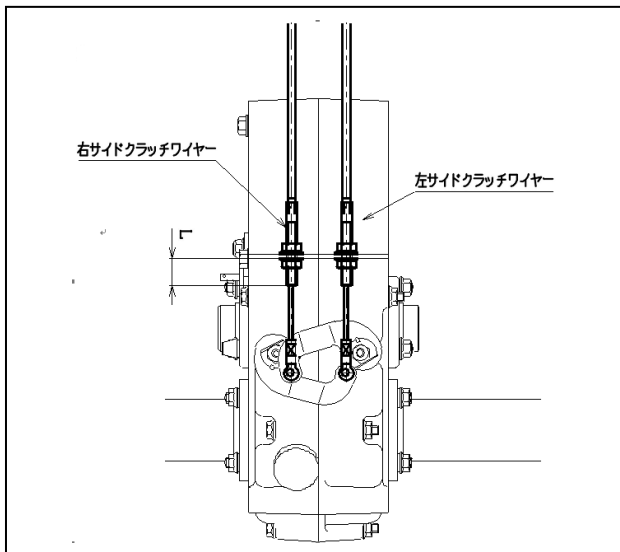


長期間使用すると、サイドクラッチの各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- ①変速レバーを低速位置に入れ、ごく低速で走行してください。
- ②左右のサイドクラッチレバーを交互に数回ずつ手前に引き、左右への旋回が問題ないかを確認してください。

簡単な手入れと処置

- ③左右いずれか旋回時にサイドクラッチの切れが悪い場合は、切れが悪い方のクラッチワイヤー両端のネジ部のL寸法が短くなるようにスパナで調整してください。上記L寸法に余裕がない場合は、次図のように走行ミッション側の両サイドクラッチのL寸法を変えることにより（クラッチワイヤーの切れが悪い場合はL寸法を短く）サイドクラッチワイヤー側の調整を行ってください。



- ④調整後、ロックナットはスパナで確実に締め付けてください。

注意

- サイドクラッチの調整においては、調整後、必ずサイドクラッチレバーが「切」の位置で、クラッチ金具に多少の遊びがあることを確認してください。
- クラッチ金具の作動に遊びがないと、走行ミッション内の爪クラッチの損傷の原因となります。

警告

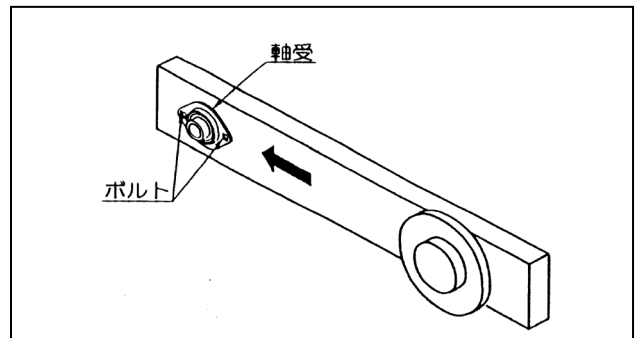
- ①チェンの張り調整や、各部の調整をする時は、必ずエンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

8. トワイン結束装置の調整(SR-613DT)

◆トワイン案内金具が

スムーズに移動しないとき

- ①チェンの油切れ
- ・・・注油する。
- ②チェンの緩み
- ・・・軸受のボルトを少し緩めて軸受を矢印方向へずらしてください。
- その後、ナットで固定します。



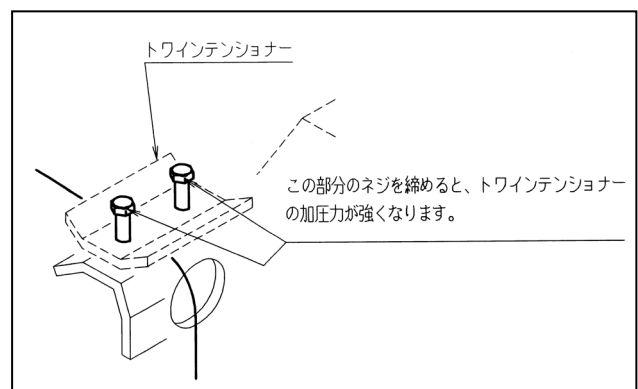
9. トワイン繰り出し調整(SR-613DT)

◆トワインの材質により調整が必要です

トワインはPP、サイザルおよびジュートが使用できますが、材質やメーカーによって多少性質が異なりますので、トワインテンショナーにより適度な加圧力に調整してください。

◆トワインテンショナーのはたらき

段付きプーリ上でトワインがスリップしないようにトワインの種類に合わせて調整するためのものです。



簡単な手入れと処置

◆トワインが繰り出しローラより出ていかないとき

- ①トワインが、どこかに引っかかっているか
……点検修正
- ②トワインテンショナーの押さえが強すぎないか
……押さえ力を小さく調整

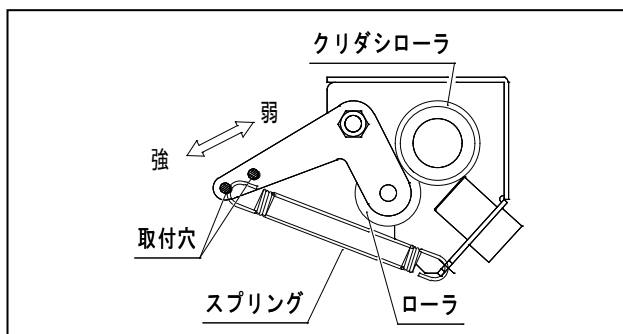
◆トワインが段付きプーリで滑るとき

- ①段付きプーリに1～2回巻き付けているか
……1～2回反時計方向に巻き付ける
- ②トワインテンショナーの押さえが弱い
……ナットを締め込み、押さえを強くする

◆サイザルやジュート等

トワインが切れすぎるとき

- ①トワインテンショナーの押さえが強すぎる
……ナットを緩めて弱くする
- ②トワイン張力の調整
……バネを「弱」側へ付け替える



- ③それでも切れるとき
……引っ張り強度30kg以上のトワインと交換する

10. ネット繰り出し調整(SR-613DN)

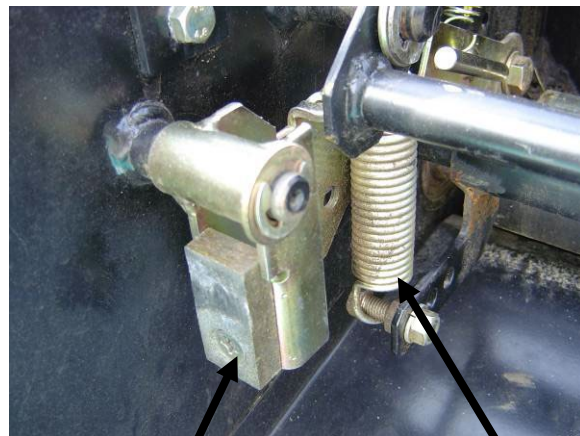
ネットの材質や、梱包する草の種類によっては調整が必要です。

⚠ 警告

- ①ネット調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

◆ネットブレーキ調整

スプリングの位置変更により、ネットブレーキの強弱が調整できます。



◆ネットを繰り出したのに

引き込まれない

- ①ネットブレーキを少し緩めてください。
- ②梱包密度を可能なだけ上げてください。
- ③満量時に繰り出す場合は、再度手動で繰り出してください。

注意

ブレーキドラム外周に錆があると、ブレーキ力が大きくなり、ネットが引き込まれない場合があります。

その場合は再度、手動で繰り出してください。

防錆のためにブレーキドラムにグリス等を塗ると、ブレーキ力が小さくなりますので絶対にやめてください。

◆ネット巻きが緩い

- ①ネット挿入方向が誤っていませんか
……修正
- ②ネットの通し方が誤っていませんか
……修正
- ③ブレーキ力が弱い
……ブレーキ力を一段強くしてください

簡単な手入れと処置

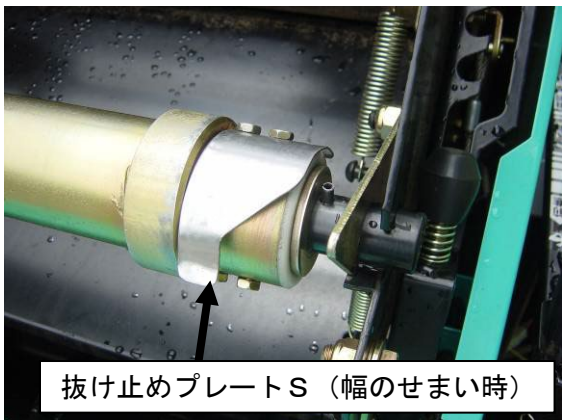
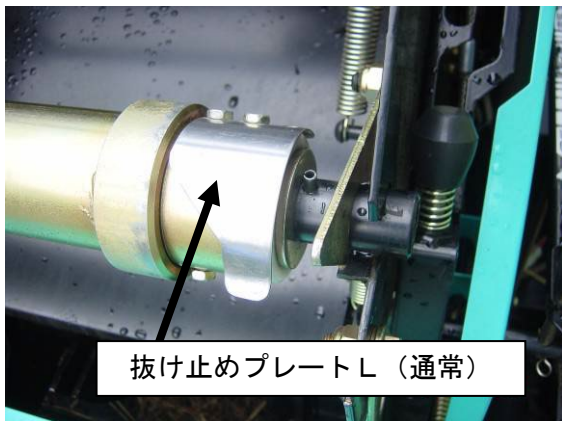
- ④ネットの間に草が入っている
…… ・ブザーが鳴ったらすぐに走行
停止または後退してください。
・巻き数を増やしてください。

◆ネットが引きちぎれる

- …… ネットブレーキを緩めてください。

1 1. 幅の狭い(幅690mm)ネットを 使用する場合(SR-613DN)

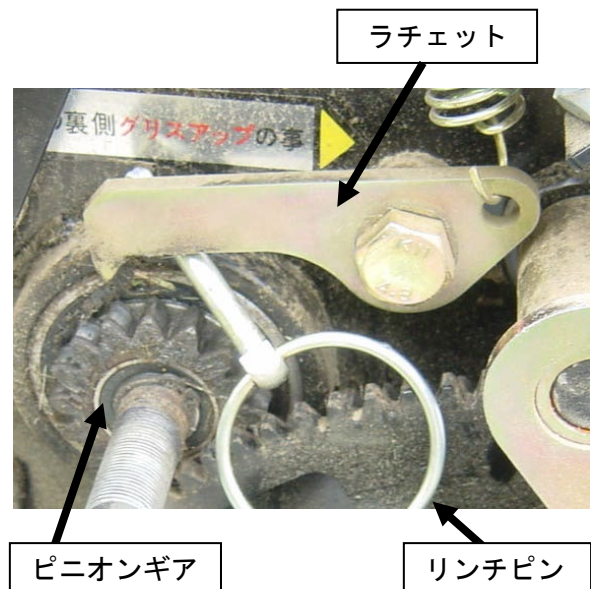
ブレーキドラム部の抜け止めプレートを
付属のものと交換し、反対側には幅決め用
のボルトを取り付けてください。



1 2. ネットがゴムローラに巻きついた 場合の処置(SR-613DN)

ネットが引きちぎれた後に手動繰り出しを
すると、ネットがゴムローラに巻きつく
ことがあります。巻きついた場合、以下の
手順でネットを解いてください。

- ①エンジンを停止し、フロントカバーミギを
開けてください。
- ②ゴムローラを駆動しているピニオンギアに
かみ込んでいるラチェット(ゴムローラの
逆転を防止しています)を上げ、リンチ
ピンなどを挟んでください。



⚠ 警告

ネットの処理を行う場合は、必ずエン
ジンを停止して回転部が止まってから
行ってください。

取り外したカバー類は、必ず取り付けて
ください。

- ③巻きついているネットを引き抜いて
ください。
- ④ネットロールに巻き戻してください。
- ⑤ラチェットを元に戻してください。

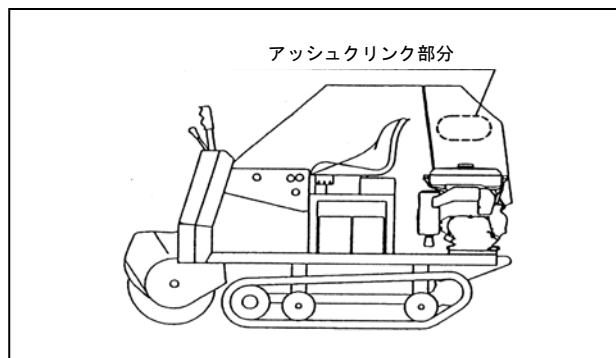
簡単な手入れと処置



- ⑥フロントカバーミギを取り付けてください。
- ⑦ネットを通してください。

13. チャンバー開閉調整

チャンバー開閉レバーを引いてもチャンバーが開かない場合や、作業途中でチャンバーが大きく開いてしまう場合は、進行方向左側のサイドカバー内側にある、アッシュクリンク部分の調整により改善が可能です。

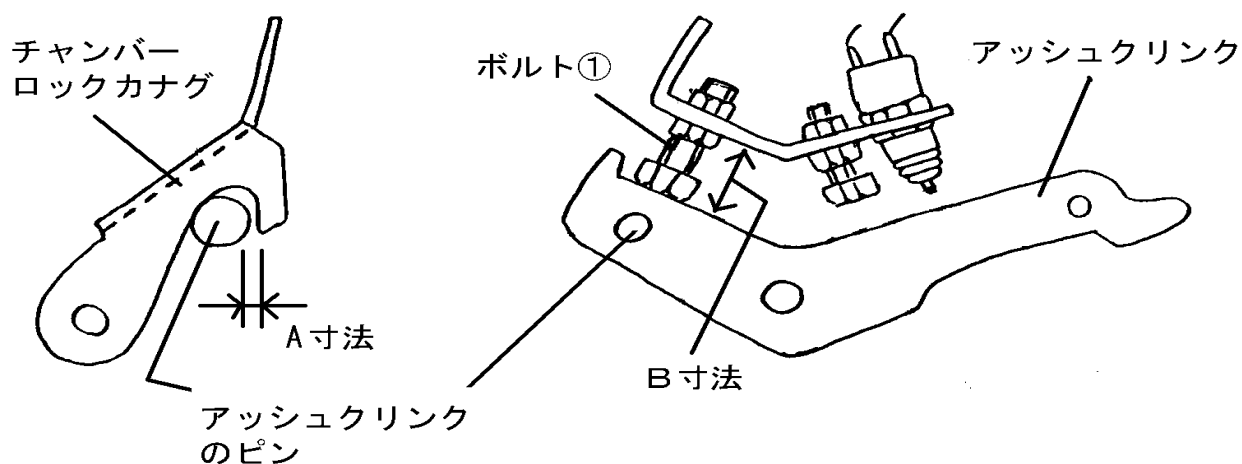


①チャンバー開閉調整のしかた

- リヤチャンバーが閉じている状態で次図のチャンバーロックカナグのA寸法を調整します。

A寸法の適正寸法は1～2mmです。

- A寸法を調整するために、図中のボルト①を調整します。(ボルト①を調整する時はリヤチャンバーを開けた状態で行うと作業が行いやすいです。)

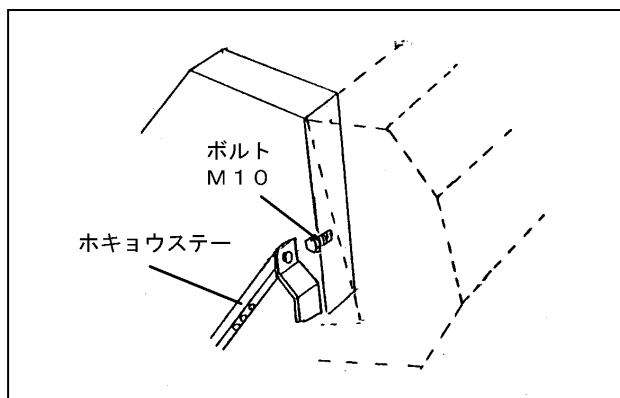


簡単な手入れと処置

- ◆チャンバーが開かない場合は
ボルト①のB寸法を短くします。
(B寸法を短くするとA寸法は小さくなります。)
- ◆作業途中でチャンバーが
大きく開く場合は
(チャンバーロックカナグがかからない場合)
ボルト①のB寸法を長くします。
(B寸法を長くするとA寸法は大きくなります。)

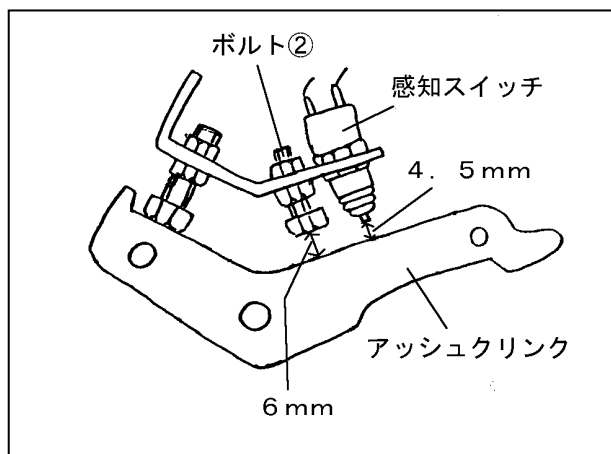
②チャンバー開閉調整の確認方法

- A寸法が正しいかどうか確認します。
チャンバーの間に(次図のように補強ステーの根元の位置前後)M10のボルト(直径10mm程の物であれば代用できます。)を挟んだ状態でチャンバーロックカナグのA寸法をほぼ0(するくらい)に調整すると、A寸法が1～2mmになります。



③ベール成形終了時の感知タイミングの調整方法(SR-613DTのみ)

- 前ページのボルト①を調整すると、ベール成形終了時の感知タイミングが変わりますので、感知タイミングを規定値に戻します。
リヤチャンバーが閉じている状態で次図のボルト②と感知スイッチの調整(出し入れ)を行い、ボルト②とアッシュクリンクの隙間を6mm、感知スイッチとアッシュクリンクの隙間を4.5mm程度に調整してください。



警告

- ①チャンバー開閉調整や、各部の調整をする時は、必ずエンジンを停止して、回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

14. クロップカバーの開け方

クロップカバーを上により上げることで、ナイフの交換や掃除が行いやすくなります。



- クロップカバーを開けている状態ではエンジンは始動できません。

警告

クロップカバーの開閉は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
注意を怠ると重大な傷害が生じる危険があります。

簡単な手入れと処置

15. 切断ナイフの手入れ

◆定期的に研磨する

ナイフは特殊鋼の焼入れを行っており減りにくくなっていますが、定期的に研磨しないと切れ味が悪くなり、馬力を喰う原因にもなります。

稲ワラ作業の場合、少なくとも500ベールに1回、牧草でも1000ベールに1回は研磨することをおすすめします。

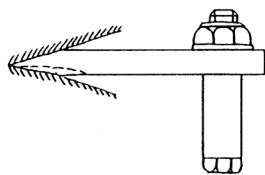
◆ナイフの外し方

24ページを参照してください。

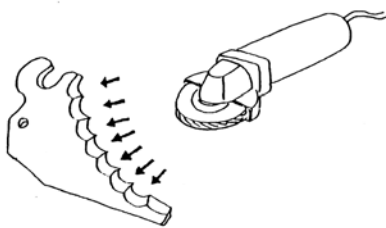
◆ナイフの砥ぎ方

仕上用のジスクホイールで色が変わらないよう、徐々に削ってください。

① 表裏共一面に仕上げる



② 切り込みに合わせて削る



注意

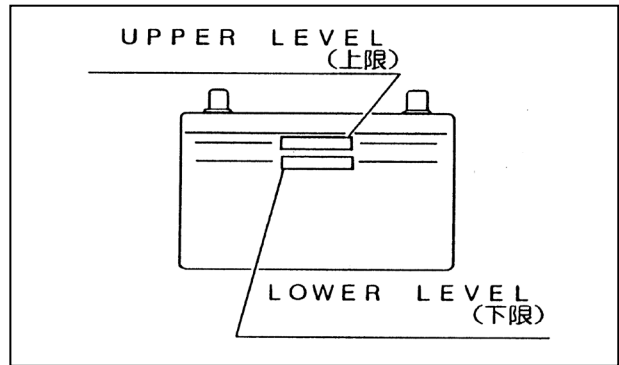
一気に削ると焼なましとなりナイフの減りが早くなります。

少し削って冷やす、を繰り返してください。

！ 注意

ナイフの取扱いには十分注意してください。

16. バッテリーについて



バッテリーの電解液中の水は蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVELとUPPER LEVELの間であれば適正です。少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

！ 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は(－)側から外し、取り付ける時は(＋)側から行ってください。逆にすると、バッテリーケーブルが本機に当たった場合にショートして火花が生じ危険です。
- バッテリーにケーブルを接続するときは(＋)と(－)を間違えないようにしてください。もし間違えると、バッテリーや電装品を破損させます。

簡単な手入れと処置

⚠ 注意

- バッテリー液は過不足がないようにしてください。
多いと液があふれて本機を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。
放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間本機を使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充電してください。
定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。
比重が1.22～1.28であれば正常です。

バッテリーは引火性ガスを発生しますので取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。

(特に保守、点検、充電等、ブースターケーブル使用時には危険のないように取り扱ってください。)

● 火気厳禁

……ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。

⇒爆発

● 通風のよい所で

……締めきった場所での使用や充電は危険です。 ⇒爆発

● バッテリー液は希硫酸

……皮膚、目、衣服につくと危険です。
⇒やけど、失明

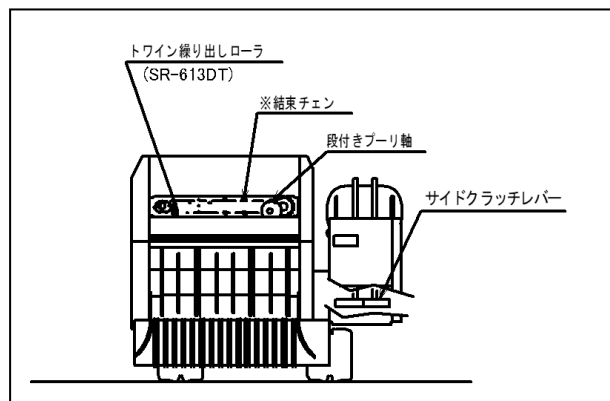
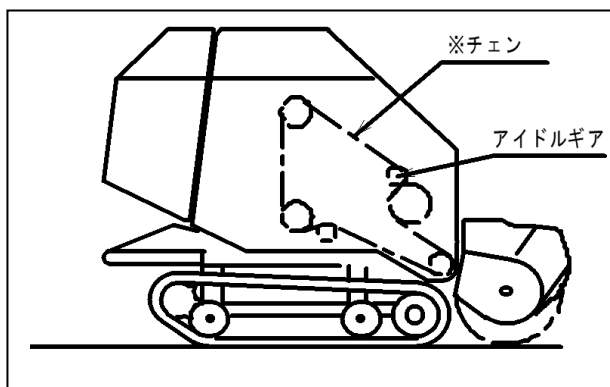
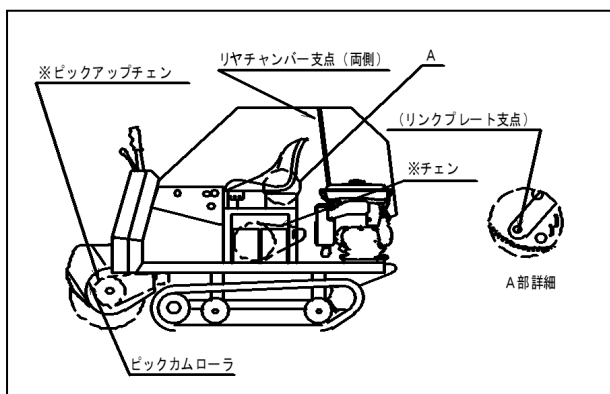
《応急手当》

- 皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗ってください。
- 目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医療機関を受診してください。

17. 各部への注油・グリスアップ

次図の各部へ注油・グリスアップを行ってください。

● 図中※印は注油を行う箇所です。



⚠ 注意

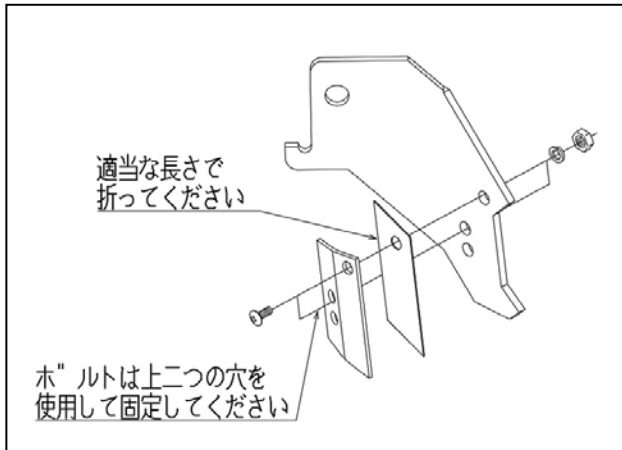
各チェーン、各回転部分や摩擦摺動部分には十分注油してください。

また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

簡単な手入れと処置

18. トワイン切断ナイフの交換 (SR-613DT)

トワインの切断が不安定になってきたら、金物店やスーパー等で販売しているナイフ（オルファ大型刃LB-10B）をお買い求めいただき、交換してください。



！ 注意

ナイフ交換には十分注意してください。

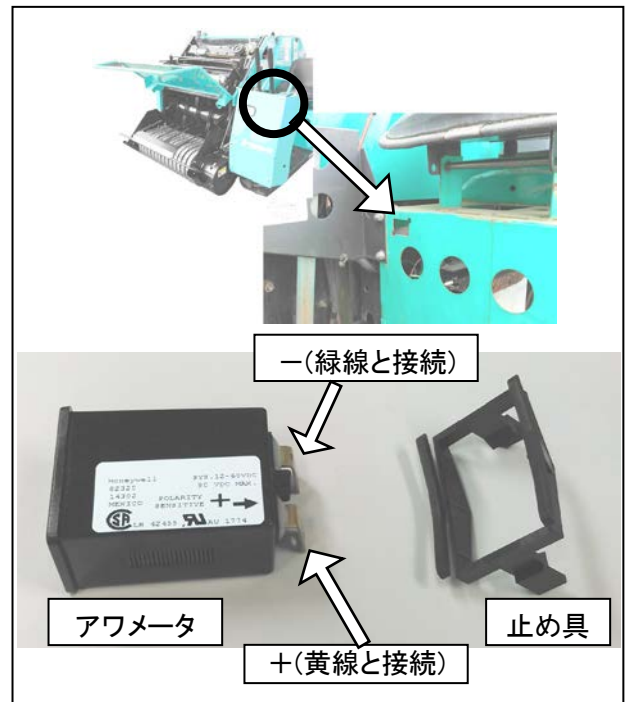
19. 長期格納時の手入れ

作業が終了しましたら、次期の使用時に備え、かつ末永くご利用いただくためにも十分なお手入れを行ってください。

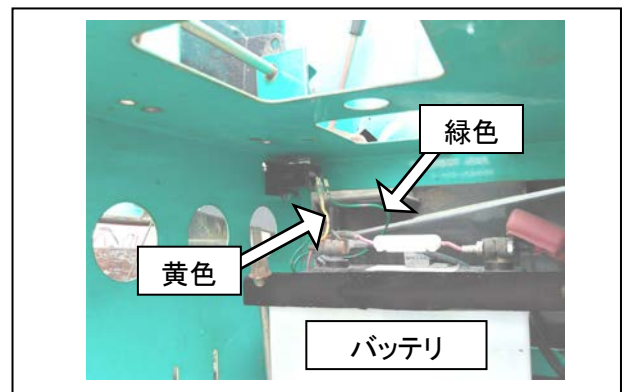
- エンジンについては、別冊のエンジン取扱説明書を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意をお願いいたします。
- 水洗いして付着した泥やホコリなどを落とし、巻き付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料などを塗って錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいる時は締めてください。
- 格納は、雨やホコリのかからない屋内の平坦な場所に保管してください。

20. アワメータの取付け方法（別売）

①図の位置にアワメータを差し込み、裏から止め具を装着して固定します。



②バッテリーにつながっているハーネスと同じところから、黄色と緑色の線が出ています。黄色の線を「+」側に、緑色の線を「-」側につないでください。（逆に接続するとアワメータが動作しません。）



アワメータ品番 00921-1000-010

簡単な手入れと処置

21. スイッチの調整

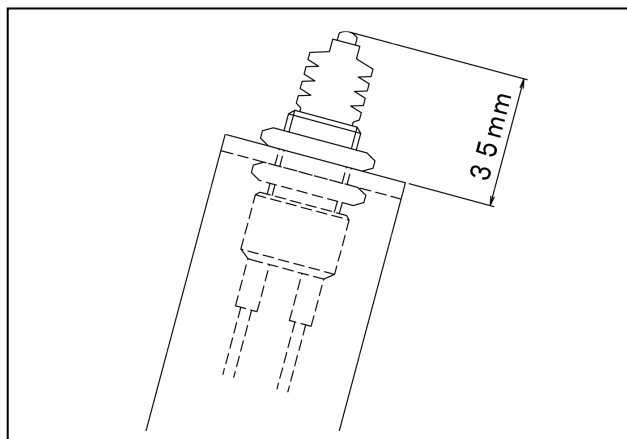
⚠ 警告

エンジンをかけたまま調整すると重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。

※各スイッチの位置は12、13ページを参照してください。

◆作業レバースイッチ、 走行レバースイッチ（全機種共通）

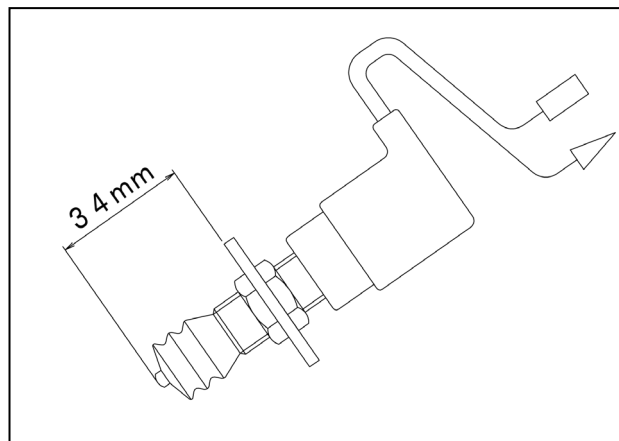
- ① スイッチを次図のように調整してください。



- ② 走行クラッチレバーと作業クラッチレバーの両方を「切」の状態にしてからキースイッチをST(スタート)位置まで回して、エンジンが始動することを確認してください。

◆作業停止スイッチ（全機種共通）

- ① スイッチを次図のように調整してください。



- ② 走行クラッチレバーと作業クラッチレバーの両方を「切」の状態にしてからキースイッチをST(スタート)位置まで回して、エンジンが始動することを確認してください。

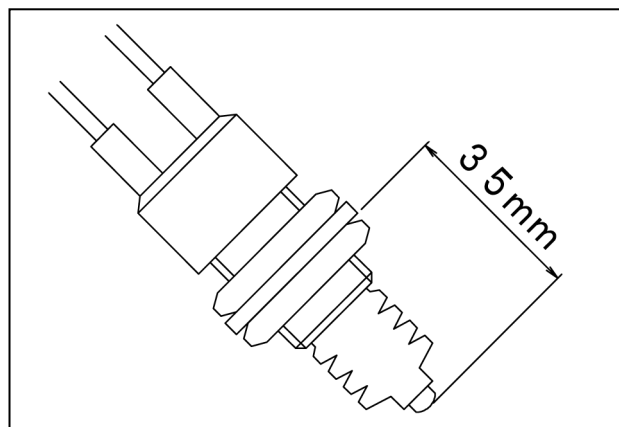
◆満了感知スイッチ

- (1) SR-613DT

40ページを参照してください。

- (2) SR-613DN

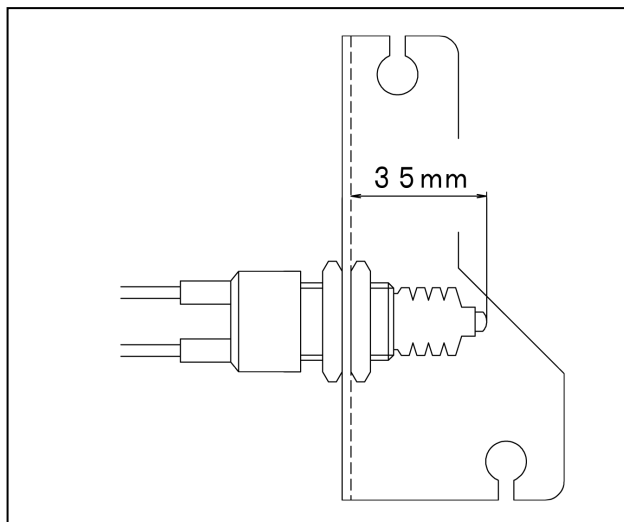
- ① スイッチを次図のように調整してください。



簡単な手入れと処置

◆リセットスイッチ(SR-613DT)

- ①スイッチを次図のように調整してください。



- ②17ページを参考にしてチャンバーを開き、リセット装置を初期状態に戻してください。

不 調 診 断

不 調 内 容 (全型式共通)	診 断	処 置	参 照 ページ
●拾い上げ部に草が つまる	●集草列が大きすぎる	●集草列を小さくする	30
	●車速が早すぎる	●車速を落として作業する	15
	●作物が漏れている	●予乾をする	—
●テーパ状のバール ができる	●集草列の片側を走行している	●集草列の中央を走行する	—
	●長ワラの場合に株側をサイド プレートに合わせて走行して いない	●株側をサイドプレートに合わせ て走行する	30
●タイトバーが異常に 振動する	●タイトチェンの油切れ	●チェンに十分注油する	23
●タイトバーもピックドラ ムも回転しなくなった	●駆動軸のシェアボルトが切断 した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	24
●ピックアップドラムが 回転しなくなった	●ピックアップ軸のシェアボルト が切断した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	24
		●集草列を小さくする	30
		●車速を遅くする	15
●タイトチェンが異常に 振動する	●梱包密度が高すぎる ●タイトチェンの油切れ	●作物に応じた設定密度にする	18
		●チェンに十分注油する	23
		●注油タンク油量を確認する	23
●リヤチャンバーが 開かない	●駆動軸のシェアボルトが切断 した	●シェアボルトを交換する 01114 5080 300 (M8×30 4T 全ネジ)	24
	●チャンバーロックカナグの 隙間調整が大きすぎる	●チャンバー開閉調整を行う	39
●作業途中でリヤチャ ンバーが大きく開く	●チャンバーロックカナグの 隙間調整が小さすぎる	●チャンバー開閉調整を行う	39
●カッティングドラムが 回転しない	●ドラムのシェアボルトが切断 した	●シェアボルトを交換する 01311 0080 300 (M8×30 11T 全ネジ)	24
		●ナイフを点検し、欠けや磨耗が ある場合は、研磨する	41

不 調 診 断

不 調 内 容 (SR-613DT)	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●トワイン案内金具が 作動しない	●トワイン段付きプーリで滑っ てしまう	●断付プーリの巻き数を多くする	18
●トワインが結束途中 で切断される	●トワインが途中で詰まっ ている	●トワインを入れ直す	18
●チャンバー内がいっ ぱいになってもブザ ーが鳴らない	●トワイン案内金具が所定の 位置にない	●案内金具を所定の位置(貼付 マークの位置)に置きなおす	19
	●梱包圧感知用スイッチが こわれている	●スイッチを交換する	12 40
不 調 内 容 (SR-613DN)	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●ネットは繰り出した が、チャンバー内に 引き込まれない	●ネットブレーキが強い	●ネットブレーキを緩める	37
	●作物が漏れている (麦稈等、滑りやすい作物)	●予乾をする	—
		●梱包密度をあげる	18
	●ブレーキドラム外周に錆が ある	●何度か手で繰り出す	23
●ネットが引きちぎれる	●ネットブレーキが強い	●ネットブレーキを緩める	37
●ネット巻きが緩い	●ネットの挿入方向が誤っ ている	●ネットを正しく挿入する	20
	●ネットの通し方が誤っている	●ネットを正しく通す	21
	●ネットブレーキが弱い	●ネットブレーキを強くする	37
	●その他	●ネットの巻き数を増やす	21
●ネットがきちんと 巻けていない (ネットの間に草が 入り込んでいる)	●ブザーが鳴った後もチャン バー内に草が多量に送り 込まれている	●ブザーが鳴ったらすぐに走行を 停止する	31
		●収量が多い場合はブザーが 鳴ったら一旦後退する	15

付 表

1. 主要諸元(SR-613DT)

機 体 寸 法	品 名	自走小型ロールベアラ
	型 式	SR-613DT
	全 長	1,920 mm
	全 幅	1,530 mm
機 体 寸 法	全 高	1,350 mm
	質 量	680 kg
走 行 部	走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ
	車速(無段変速)	前進 0~3.5 km/h 後進 0~2.5 km/h
	ク ロ ー ラ 幅	250 mm
エ ン ジ ン	型 式	ヤンマー L70V6-KETK2
	定 格 出 力	4.3 kW/3600 min ⁻¹ (5.9 ps/3600 rpm)
	最 大 出 力	4.8kW(6.5 ps)
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油
	タ ン ク 容 量	3.3 L
	始 動 方 式	セルスタータ
ベ ー ル 部	作 業 幅	1,020 mm
	ベ ー ル 寸 法	φ500×730 mm
	ベ ー ル 重 量	14~20 kg(含水率20~50%)
	トワインの種類	PP、サイザル
バ ッ テ リ ー		40B19R
作 業 速 度		1.0~3.5 km/h(無段変速)
作 業 能 率		30~40分/10a

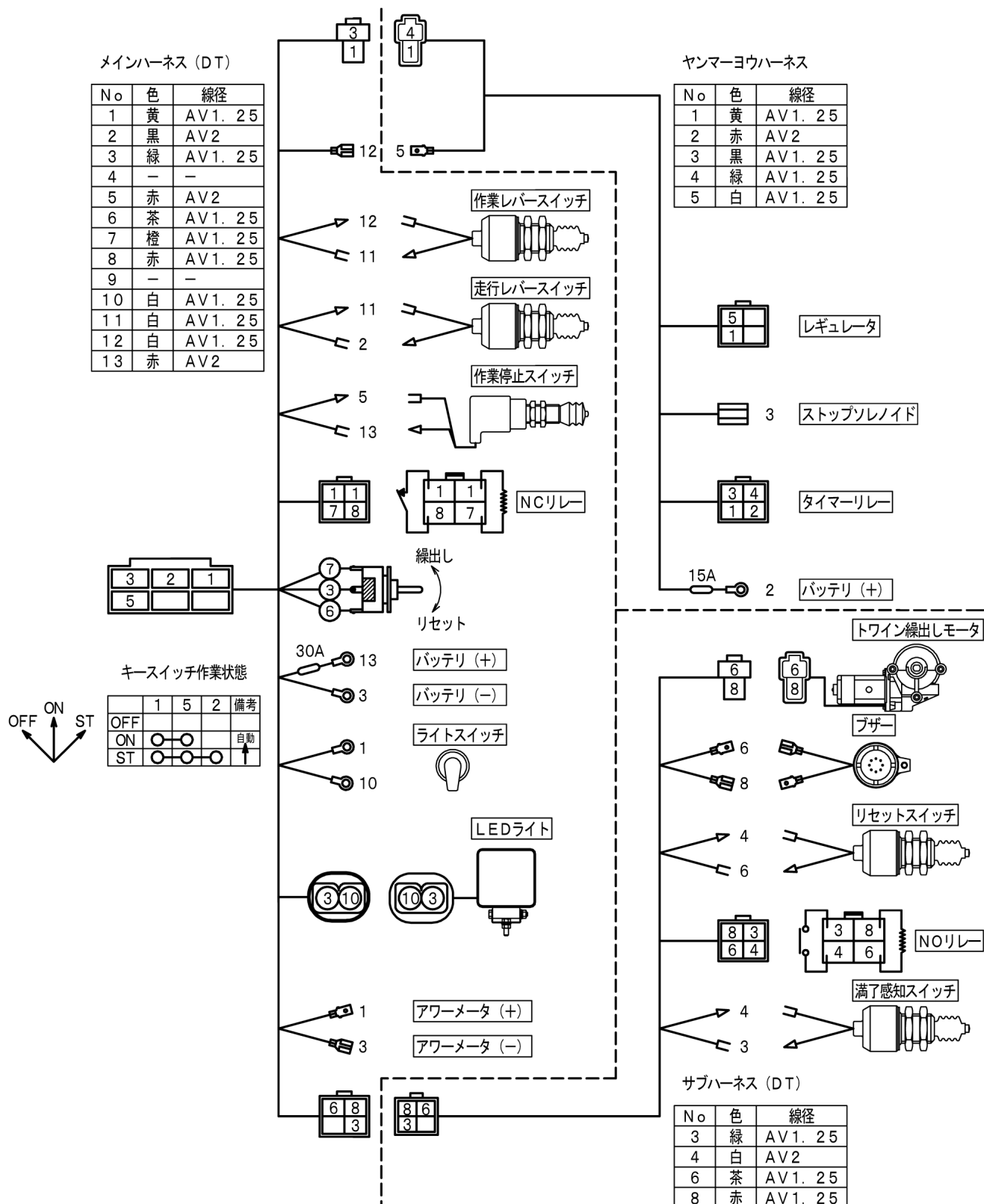
※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品(SR-613DT)

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト	01314 5080 300	M8×30 4T 全ネジ
シェアボルト	01111 5080 300	M8×30 11T 全ネジ
ナイロンナット	02312 4001 080	M8
ナイフ	11665 6543 001	
トワイン	11661 9994 000	4巻入

付 表

3. 回路図 (SR-613DT)



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

付 表

4. 主要諸元(SR-613DN)

機 体 寸 法	品 名	自走小型ロールベアラ
	型 式	SR-613DN
	全 長	1,920 mm
	全 幅	1,530 mm
質 量	全 高	1,350 mm
	質 量	670 kg
走 行 部	走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ
	車速(無段変速)	前進 0~3.5 km/h 後進 0~2.5 km/h
	ク ロ ー ラ 幅	250 mm
エ ン ジ ン	型 式	ヤンマー L70V6-KETK2
	定 格 出 力	4.3 kW/3600min ⁻¹ (5.9 ps/3600 rpm)
	最 大 出 力	4.8 kW(6.5ps)
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油
	タ ン ク 容 量	3.3 L
	始 動 方 式	セルスタータ
ベ ー ル 部	作 業 幅	1,020 mm
	ベ ー ル 寸 法	φ500×730 mm
	ベ ー ル 重 量	14~20kg(含水率20~50%)
	ネ ッ ト の 種 類	純正ネット
バ ッ テ リ ー		40B19R
作 業 速 度		1.0~3.5 km/h(無段変速)
作 業 能 率		23~30分/10a

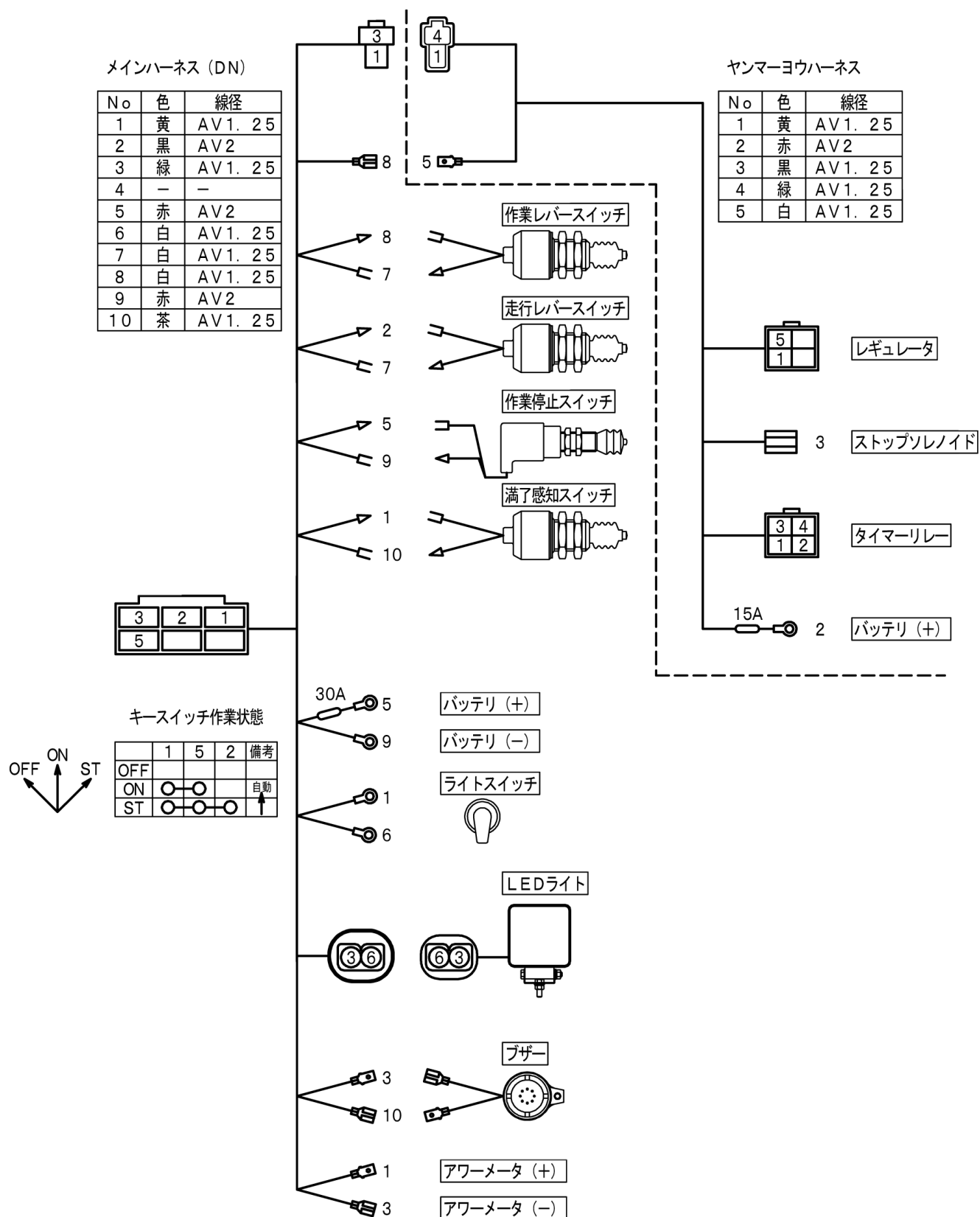
※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

5. 主な消耗部品(SR-613DN)

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト	01314 5080 300	M8×30 4T 全ネジ
シェアボルト	01111 5080 300	M8×30 11T 全ネジ
ナイロンナット	02312 4001 080	M8
カッターバー	32118 7541 000	
ネット	32118 9911 000	

付 表

6. 回路図 (SR-613DN)



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。